

書籍の場合

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
29	青森	書籍	29	佐藤政五郎	1987	南部のことは 第二版増補新版	伊吉書院	196	八戸市	《記述的研究》方言集	『南部のことは』より446語増補。
32	青森	書籍	32	岡田一二三	1996	みちのく 南部の方言	伊吉書院	?	?	?	未調査。

発行年順に並んでいます。
(論文、市町村史も同じ。)

ページは
総ページ数です。

該当する被災地が挙げられています。
「地名(地名)」とあるのは、「現在の市町村名(旧市町村名)」です。
(論文、市町村史も同じ。)

?は不明な箇所に
つけられています。
(論文、市町村史も同じ。)

論文の場合

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
40	青森	論文	4	内田武志	1934	青森県方言調査報告	土の香12-3(土俗趣味社)	46-71	八戸市、おいらせ町(百石町)	《記述的研究》方言集	
43	青森	論文	7	宮良当壮	1940	青森県秋田両県に於けるP音	[安藤教授還暦祝賀論文集]	1017-1040	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻)	

「雑誌名xx-xx(発行所)」です。
xx-xxの部分は巻号です。

論文が書籍に収録されている場合は、
書籍名を〔 〕で括弧しています。

雑誌や書籍中の何ページに載っているかが
示されています。()で数字が括弧されている場合は
論文の総ページ数です。

市町村史の場合

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
108	青森	市町村史	1	正部家奨	1977	階上町誌	階上町	799-830	階上町	《記述的研究》方言集	第五章 方言・訛語。

市町村史の何ページに載っているかが
示されています。

「内容」は、以下のように分類されています。(書籍、論文も同じ。)

- ▼研究手法・対象分類
 - 《記述的研究》《地理的分布》《世代差》《グロットグラム》《共通語化》
- ▼内容分類
 - ・音声；(音声、音韻、アクセント、イントネーション、その他)
 - ・語彙；(意味・用法、その他)
 - ・方言集
 - ・文法；(文法概説、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、条件表現、文末形式・文末表現、その他)
 - ・言語行動；(談話分析、表現など)
 - ・待遇表現；(敬語、その他)
 - ・談話資料
 - ・その他；(方言意識など)

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
1	青森	書籍	1	不明	19--	八戸附近方言及訛語	不明(私製)	4	八戸市	《記述的研究》方言集	国研『青森県方言資料集1』所収。
2	青森	書籍	2	八戸郷土研究会	19--	方言採集録	八戸郷土研究会	127	八戸市	《記述的研究》方言集	名詞は「天文」「地理」など語彙ごとにあり、ほかに「代名詞」「動詞」など品詞ごとにまとめられている。国研所蔵。
3	青森	書籍	3	築瀬栄	1906	教育適用南部方言集	八戸印刷	53	南部地方	《記述的研究》方言集	
4	青森	書籍	4	青森県師範学校	1907	方言調査報告	小藤印刷所	16	?	?	書籍不明。『20世紀方言研究の軌跡』にはあるが確認できず。
5	青森	書籍	5	青森県	1908	青森県方言訛語	青森県庁	110	全域	《記述的研究》方言集	「総説」として津軽方言についての音声・音韻、また文法概説がある。南部方言については方言集あり。国研『青森県方言資料集1』所収。
6	青森	書籍	6	東奥日報社	1932	青森県方言集(最新東奥日用語辞典所収)	東奥日報社	48	全域	《記述的研究》方言集	
7	青森	書籍	7	小井川潤次郎	1932	青森県八戸市近傍植物方言	小井川潤次郎	46	八戸市	《記述的研究》方言集	植物名。国研『青森県方言資料集2』所収。
8	青森	書籍	8	青森県師範学校 菅沼貴一	1935	青森県方言集	青森県師範学校	180	全域	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(助詞/助動詞/活用)	
9	青森	書籍	9	菅沼貴一	1936	青森県方言集(改訂本)	今泉書店	190	全域	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(助詞/助動詞/活用)	
10	青森	書籍	10	江渡益太郎	1949	正しく美しいことばの生活を求めて 私の方言研究ノート	三戸郡地引小学校	54	八戸市	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/《その他》方言矯正	南部方言についての言及。国研『岩手県方言資料集1』所収。
11	青森	書籍	11	北山長雄	1951	青森県方言音韻語法の特徴形の実態	国研報告書	6	?	?	未調査。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
12	青森	書籍	12	北山長雄	1951	青森県方言の概観	国研報告書	113	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻)/方言集/文法(文法概説)/《地理的分布》語彙(その他(語形))	地理的分布は「メダカ」と「神官」。
13	青森	書籍	13	日野資純	1958	青森方言から共通語へ—音韻アクセントを中心として—	日野資純	22	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻)	青森県全般について。国研『青森県方言資料集1』所収。
14	青森	書籍	14	寺井義弘	1962	青森県南部方言考	八戸市教育委員会	112	南部地方	《記述的研究》音声(音声/音韻)/方言集/文法(文法概説/活用)	表紙には「昭和37年10月」とあるが、内書きに1962.9.25の日付あり。国研『青森県方言資料集3』所収。
15	青森	書籍	15	読売新聞社青森支局	1965	青森のことば	読売新聞社青森支局	31	全域	《その他》	新聞の連載記事。雑多な内容。
16	青森	書籍	16	此島正年	1966	青森県の方言	青森県文化財保護協会	220	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント/イントネーション)/語彙(語彙/意味・用法)/文法(助詞/活用/条件表現)/《共通語化》音声(音韻)/語彙(意味・用法)/文法(助詞)/待遇表現(敬語)	共通語学習法の記述も。
17	青森	書籍	17	九学会連合下北調査委員会	1967	下北—自然・文化・社会—	平凡社	563	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》音声(アクセント)/文法(助詞/活用/ボイス)/待遇表現(敬語)/《地理的分布》音声(アクセント)/語彙/《グロットグラム》語彙	調査対象地域は下北半島すべて。
18	青森	書籍	18	菅沼貴一	1975	青森県方言集	国書刊行会	190	全域	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(助詞/活用)	再刊本。原本は1936年刊。
19	青森	書籍	19	青森県教育委員会	1975	青森県民俗分布図—緊急民俗資料分布調査報告書—	青森県教育委員会	62	東通村、六ヶ所村、三沢市、おいらせ町(百石町)、八戸市、階上町	《地理的分布》語彙(その他(語形))	民俗地図。北海道教育委員会・青森県教育委員会・岩手県教育委員会編/天野武監修(2000)『都道府県別 日本の民俗分布地図集成1 北海道・東北地方の民俗地図1 北海道・青森・岩手』東洋書林所収。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
20	青森	書籍	20	工藤祐	1979	津軽と南部の方言	北方新社	250	南部地方	《記述的研究》方言集	青森県の文化シリーズ15。津軽・南部の方言についての語彙集。自然の部(天象、地勢)、生物の部(鳥獣、魚介、昆虫、植物)。
21	青森	書籍	21	平山輝男	1982	北奥方言基礎語彙の総合的研究	桜楓社	642	八戸市	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/方言集/語彙(意味・用法)/文法(助詞/活用/ボイス/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	
22	青森	書籍	22	佐藤政五郎	1982	南部のことば	伊吉書院	373	八戸市	《記述的研究》方言集	約17000語。
23	青森	書籍	23	館光子(松館光城)	1983	ことばのごもず 方言が語る私の八戸	八戸地域社会研究会	164	八戸市	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/語彙(意味・用法)/談話資料/その他(方言意識)	八戸町大字塩町。八戸で話されている方言全般について広く記述されている。但し、文法事項などは少ない。主に語彙、談話的資料、昔話など。
24	青森	書籍	24	高松敬吉	1984	下北半島昔話集	岩崎美術社	257	下北郡	《記述的研究》その他(昔話)	全文方言口調(関敬吾『日本昔話集成』よりの収録数が多い。すべて地元の話者から採録)共通語対訳はなし(接続助詞等一部括弧書きで記載する程度)。
25	青森	書籍	25	高橋圭三	1984	教育適用南方方言集: 共通語索引並びに解説	高橋圭三	31	南部地方	《その他》	築瀬栄(1906)の共通語索引。
26	青森	書籍	26	大嶋孜	1986	下北半島東通村の昔話 わたしの民話ノート	青森県国民教育研究所	212	東通村	《記述的研究》文法(文法概説)/その他(昔話)	一村内のものとしては詳しい。「大利部落の方言」とセットの内容。
27	青森	書籍	27	大嶋孜	1986	下北半島大利部落の方言	青森県国民教育研究所(青森教文社)	172	東通村	《記述的研究》方言集	「東通村の昔話」とセットの内容。
28	青森	書籍	28	寺井義弘	1986	青森県南・岩手県北・八戸地方方言辞典 古語出典付	寺井義弘	452	八戸市	《記述的研究》方言集/文法(文法概説)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
29	青森	書籍	29	佐藤政五郎	1987	南部のことば 第二版 増補新版	伊吉書院	196	八戸市	《記述的研究》方言集	『南部のことば』より4466語増補。
30	青森	書籍	30	佐藤政五郎	1990	「第二版 南部のことば」補遺集	佐藤 政五郎	47	八戸市	《記述的研究》方言集	『南部のことば』第二版の後に収集した2069語をまとめたもの。
31	青森	書籍	31	佐藤政五郎	1992	南部のことば 第3版 増補改訂	伊吉書院	206	八戸市	《記述的研究》方言集	「第二版 南部のことば補遺集」までの23400余語をまとめたもの。
32	青森	書籍	32	岡田一二三	1996	みちのく 南部の方言	伊吉書院	?	?	?	未調査。
33	青森	書籍	33	大橋純一	2002	東北方言音声の研究	おうふう	469	八戸市	《記述的研究》《地理的分布》音声(音声)	被災地に関しては他に岩手県洋野町(種市町、大野村)、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市(宮古市、田老町、川井村)、大槌町、宮城県気仙沼市(本吉町)、仙台市、山元町、福島県檜葉町、いわき市が調査地点となっている。
34	青森	書籍	34	青森県	2003	青森県史 自然編 生物 別冊 青森県の生物呼称	青森県	238	全域	《地理的分布》語彙(意味・用法)	
35	青森	書籍	35	平山輝男ほか編/佐藤和之・大島一郎・大野真男・久野真・久野マリ子・平沢洋一・榎引洋子執筆	2003	〈日本のことばシリーズ2〉青森県のことば	明治書院	286	全域	《記述的研究》音声(音声/アクセント)/方言集/文法(活用/文法概説)/待遇表現/その他(方言区画/方言意識/諺/なぞなぞ/方言詩/わらべ歌/民謡/昔話)	概説書。
36	青森	書籍	36	佐藤政五郎著/佐藤暹・佐藤いつ編著	2006	へんだら、まんつ 南部のことば抄	木村書店	278	南部地方	《記述的研究》方言集	方言語彙の中でも古語の残存と思われる語について掲載し解説している。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
37	青森	論文	1	菅沼貴一	1933	「青森県方言集」より	国語教育18-3(国語研究会)	68-73	全域	《記述的研究》方言集	『青森県方言集』からの抜粋か。
38	青森	論文	2	菅沼貴一	1933	青森県の方言	郷土号1(青森県師範学校校友会)	99-132	全域	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(助詞/助動詞/活用)	
39	青森	論文	3	八角三郎	1933	陸奥下北半島地名考	旅と伝説6-6(岩崎美術社)	2-11	東通村	《記述的研究》その他	下北地方のアイヌ語起源とみられる地名を収集し、考察。
40	青森	論文	4	内田武志	1934	青森県方言調査報告	土の香12-3(土俗趣味社)	46-71	八戸市、おいらせ町(百石町)	《記述的研究》方言集	
41	青森	論文	5	永田吉太郎	1936	青森県八戸市方言稿	方言6-2(春陽堂)	153-155	八戸市	《記述的研究》方言集/語彙(意味・用法)/文法(助詞/活用)	
42	青森	論文	6	佐藤政五郎	1936	南部方言訛語序説	郷土号4(青森県師範学校校友会)	181-286	南部地方	《記述的研究》方言集/文法(助詞/助動詞/活用)	
43	青森	論文	7	宮良当壮	1940	青森県秋田両県に於けるP音	[安藤教授還暦祝賀論文集]	1017-1040	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻)	
44	青森	論文	8	大西久枝	1952	青森県下北郡方言に於ける音韻について	文学論藻2(東洋大学国語国文学会)	18-29	下北郡	《記述的研究》音声(音韻)	
45	青森	論文	9	此島正年	1952	青森(ことば風土記)	言語生活12(筑摩書房)	38-39	南部地方	《記述的研究》文法(文法概説)	津軽地方と南部地方について述べている。
46	青森	論文	10	此島正年	1952	終助詞による敬意のあらわし方(青森県)	国研(52)報告	(21)	全域	《記述的研究》待遇表現	国立国語研究所の地方調査員報告。『地調(52)報告 終助詞による待遇表現(北海道・東北)』の中にとじられている。著者自身の原稿。
47	青森	論文	11	此島正年	1952	「これからの敬語」についての所感(青森県)	国研(52)報告	(28)	全域	《記述的研究》その他	「これからの敬語」について青森県方言の視点から検討する。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
48	青森	論文	12	豊巻英吉	1953	南部(八戸)方言に於ける助動詞について—特にサル・エルについて—	国語学12(国語学会)	96-97	八戸市	《記述的研究》文法(活用/助動詞)	
49	青森	論文	13	此島正年	1954	青森方言の敬語法	弘前大学人文社会5(弘前大学人文社会学会)	39-45	南部地方	《記述的研究》待遇表現(敬語)	津軽地方と南部地方について述べている。
50	青森	論文	14	小島俊之亮	1956	下北地方の田名部弁(ことば風土記)	言語生活52(筑摩書房)	75-76	下北地方	《記述的研究》音声(音声)/文法(文末形式・文末表現)	
51	青森	論文	15	此島正年	1956	青森	[NHK国語講座 方言の旅]	11-16	八戸市	《記述的研究》音声(アクセント)/文法(助詞)	内容は黒石市と五戸町の会話例で被災地には直接関係ないが、八戸ではこのように言う、という箇所が数個ある。
52	青森	論文	16	小島俊之亮	1956	下北方言の表情(ことば風土記)	言語生活63(筑摩書房)	74-75	下北郡	《記述的研究》音声(音声)/その他(方言意識)	
53	青森	論文	17	此島正年	1960	方言と共通語の交渉—青森県言語の語法を例として—	弘前大学人文社会22(弘前大学人文社会学会)	105-116	全域	《記述的研究》文法(文法概説/助詞/助動詞/形容詞など)	主に津軽地方。
54	青森	論文	18	此島正年	1961	方言の実態と共通語化の問題点 2青森	[方言学講座2]	127-149	南部地方	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/文法(文法概説/助詞)/待遇表現(敬語)	津軽地方と南部地方について述べており、方言の概要を説明した上で、共通語化のために直すべき点を説明している。
55	青森	論文	19	寺井義弘	1963	青森県南部方言考(抄)	国語研究16(日本書院)	(8)	八戸市	《記述的研究》音声(音韻)/文法(文法概説)	
56	青森	論文	20	川本栄一郎	1963	青森県下北方言におけるウ段音	国語学研究3(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	74-85	東通村	《記述的研究》《地理的分布》音声(音声/音韻)	
57	青森	論文	21	柴田武	1964	下北方言の分布	人類科学17(九学会連合)	72-87	東通村	《地理的分布》音声(アクセント)/語彙	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
58	青森	論文	22	此島正年	1965	下北方言語法考	弘前大学人文社会35(弘前大学人文社会学会)	53-64	東通村	《記述的研究》文法(文法概説/助詞/活用)/待遇表現(敬語)/《地理的分布》文法(文法概説)	
59	青森	論文	23	柴田武	1965	下北の方言	都立大学方言学会会報6(都立大学方言学会)	(6)	東通村	《記述的研究》音声(アクセント)	
60	青森	論文	24	川本栄一郎	1965	青森県下北方言の「イ」と「ウ」	国語学61(国語学会)	16-28	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》《地理的分布》音声(音韻)	
61	青森	論文	25	日野資純	1966	下北地方における共通語教育—従来の成果と今後の問題点—	人類科学18(九学会連合)	146-171	東通村	《記述的研究》音声(音声)/《共通語化》音声(音声/アクセント)/文法(文法概説/助詞/文末形式・文末表現)	
62	青森	論文	26	川本栄一郎	1966	青森県下北地方のウ段拗長音	国語学研究6(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	1-14	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》音声(音声/音韻)/《地理的分布》音声(音声/音韻)/《世代差》音声(音声)	
63	青森	論文	27	川本栄一郎	1966	青森県下北地方における「あやめ」の方言分布とその解釈	国語学67(国語学会)	47-59	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》音声(音声)/語彙(語形)/《地理的分布》音声(音声)	
64	青森	論文	28	佐藤喜代治・加藤正信	1974	青森県東南部・岩手県西北部地方の言語調査報告—音韻・アクセントの部—	日本文化研究所研究報告 別巻11(東北大学日本文化研究所)	1-17	三沢市、おいらせ町(百石町)	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/《地理的分布》音声(アクセント)/語彙(意味・用法)	
65	青森	論文	29	佐藤喜代治・加藤正信	1975	青森県東南部・岩手県西北部地方の言語調査報告—文法・語彙の部—	日本文化研究所研究報告 別巻12(東北大学日本文化研究所)	1-20	三沢市、おいらせ町(百石町)	《記述的研究》文法(助詞/助動詞/条件表現/動詞など)/《地理的分布》語彙(意味・用法)	
66	青森	論文	30	井上史雄	1976	集落内の言語差—下北半島上田屋—	北海道大学人文科学論集12(北海道大学教養部人文科学論集編集委員会)	65-101	東通村	《地理的分布》《世代差》《共通語化》語彙(意味・用法)	
67	青森	論文	31	加藤正信	1978	八戸方言の系統	[伝統と未来 八戸市民大学講座講演集 1977]	102-113	八戸市	《記述的研究》音声(音声/アクセント)/文法(助詞)/その他(方言区画)/《共通語化》その他	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
68	青森	論文	32	川本栄一郎	1982	青森県における「鱒」の成長段階名	文経論叢17-3人文科学篇2(弘前大学人文学部)	101-118	全域	《記述的研究》《地理的分布》語彙(語形)	
69	青森	論文	33	佐々木隆次	1982	あいさつお国めぐり(12) 青森の巻—直截にして簡明	言語生活365(筑摩書房)	94-95	南部地方、下北地方	《記述的研究》語彙(意味・用法)	津軽地方、南部地方、下北地方それぞれについて言及。
70	青森	論文	34	此島正年	1982	青森県の方言	[講座方言学4 北海道・東北地方の方言]	215-236	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/文法(文法概説/助詞)/《その他》研究史/区画	
71	青森	論文	35	高橋宏一・二ツ矢昌夫・竹浪二三正	1982	青森県言語調査の統計的解析(1)	Science Reports of the Hirosaki Univ. 29-2(弘前大学理学部)	93-111	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》その他(統計)	
72	青森	論文	36	此島正年	1983	青森方言語法にまつわる諸問題 共通語との関連を主として	[現代方言学の課題1]	121-137	全域、三沢市	《記述的研究》文法(文法概説/助詞/活用)/《共通語化》文法(助詞/活用/動詞など)	青森県全般にかかわる記述。その中に三沢市について触れている部分がある。
73	青森	論文	37	二ツ矢昌夫・高橋宏一	1983	青森県言語調査の統計的解析(2)	Science Reports of the Hirosaki Univ. 30-1(弘前大学理学部)	11-19	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》その他(統計)	
74	青森	論文	38	川本栄一郎	1984	青森県方言におけるビックとモッケとゲアロの言語地理学的考察	文経論叢19-3人文科学篇4(弘前大学人文学部)	85-111	東通村、六ヶ所村、三沢市、おいらせ町(百石町)、八戸市、階上町	《記述的研究》《地理的分布》語彙(その他(語形))	
75	青森	論文	39	大阪真理	1984	青森県における親族語彙(1)	方言誌あおもりけん2(青森・方言研究会)	10-20	東通村、六ヶ所村、三沢市、八戸市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(意味・用法)	広く青森全域に渡った調査、「祖父」を意味する方言の分布。
76	青森	論文	40	佐々木隆次	1984	語源めぐり歩き	方言誌あおもりけん2(青森・方言研究会)	21-29	六ヶ所村、三沢市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	「おばあさん」に関する語彙の記載あり。
77	青森	論文	41	八条志馬	1985	富山地方と徳島、大阪、青森、北海道の方言研究	北海道方言研究会会報10(北海道方言研究会)	(4)	全域	《記述的研究》語彙(意味・用法)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
78	青森	論文	42	大阪真理	1985	青森県における親族語彙(2)	方言誌あおもりけん3(青森・方言研究会)	4-26	東通村、六ヶ所村、三沢市、八戸市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(意味・用法)	広く青森全域に渡った調査、「祖母」「父」「母」を意味する方言の分布。
79	青森	論文	43	渡辺修平	1985	青森アクセントについて その1	方言誌あおもりけん3(青森・方言研究会)	1-3	全域	《記述的研究》音声(アクセント)	
80	青森	論文	44	井上史雄	1986	〈新方言〉と共通語の20年後 下北半島上田屋	東京外国語大学論集36(東京外国語大学)	62-80	東通村	《共通語化》語彙(その他(語形))	
81	青森	論文	45	八条志馬	1986	方言の研究 青森、秋田、北海道	北海道方言研究会会報13(北海道方言研究会)	15-17	全域	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
82	青森	論文	46	館光子	1986	謡曲と八戸	方言誌あおもりけん4(青森・方言研究会)	1-3	八戸市	《その他》	八戸の言葉に関する雑感・随想。
83	青森	論文	47	大阪真理	1986	青森県における親族語彙(3)	方言誌あおもりけん4(青森・方言研究会)	3-26	東通村、六ヶ所村、三沢市、八戸市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(意味・用法)	広く青森全域に渡った調査、「兄」「姉」「末っ子」を意味する方言の分布。
84	青森	論文	48	佐々木隆次	1986	「グズガサエビ」の「グズ」を求めて	方言誌あおもりけん4(青森・方言研究会)	27-38	三沢市、八戸市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(意味・用法)	「グズ」に関する調査(語彙)、ただし被災地域に関するものは少ない。
85	青森	論文	49	村上讓	1986	「クラバネア」	方言誌あおもりけん4(青森・方言研究会)	50-51	三戸郡	《記述的研究》語彙(意味・用法)/文法(活用)	
86	青森	論文	50	此島正年	1987	青森方言雑考	方言誌あおもりけん5(青森・方言研究会)	1-4	八戸市	《記述的研究》語彙(意味・用法)/文法(条件表現/文末形式・文末表現)	「ウザネハク」、「マイネ」、「行クンダ」「起キンダ」などの命令法。
87	青森	論文	51	高山治	1987	県内高校生の方言意識調査(1)	方言誌あおもりけん5(青森・方言研究会)	22-33	八戸市	《記述的研究》《地理的分布》その他(方言意識)	青森、弘前、八戸の高校生を対象としており、各市間での比較、男女差にも触れている。
88	青森	論文	52	館光子	1987	訛りは国の手形	方言誌あおもりけん5(青森・方言研究会)	38-39	八戸市	《その他》	方言に対する雑感、「なしろがえし」を八戸の商家で隠語として使っているという記述あり。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
89	青森	論文	53	川本栄一郎	1988	青森県における「旧暦六月一日」を表わす名称の言語地理学的考察	〔国語語彙語法論叢 此島正年博士喜寿記念〕	634-654	東通村、六ヶ所村、三沢市、おいらせ町(百石町)、八戸市、階上町	《地理的分布》語彙(その他(語形))	
90	青森	論文	54	川本栄一郎	1988	青森県における「つらら」と「氷」の方言分布	方言誌あおもりけん6(青森・方言研究会)	11-15	東通村、六ヶ所村、三沢市、おいらせ町(百石町)、八戸市、階上町	《地理的分布》語彙(その他(語形))	
91	青森	論文	55	高山治	1988	県内高校生の方言意識調査(2)	方言誌あおもりけん6(青森・方言研究会)	49-82	八戸市	《記述的研究》文法(文末形式・文末表現)/その他(方言意識)	青森、弘前、八戸の高校生を対象としており、各市間での比較、男女差にも触れている。
92	青森	論文	56	森下喜一	1991	地域別・年齢別にみた青森方言アの変化とその過程について1・2音節名詞を中心に	〔日本語論考〕	128-144	八戸市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》音声(アクセント)	調査地域は八戸市、十和田市、野辺地町、むつ市、青森市、弘前市、五所川原市、今別町。
93	青森	論文	57	森下喜一	1991	青森方言アクセントの型とその変化について三・四音節語を中心に	作新学院大学紀要1(作新学院大学経営学部)	113-132	八戸市	《記述的研究》音声(アクセント)	
94	青森	論文	58	葛西孜	1991	女子大生の方言・共通語意識	方言誌あおもりけん9(青森・方言研究会)	1-11	全域	《記述的研究》その他(方言意識)	女子短大生の方言意識に関する調査。
95	青森	論文	59	大西拓一郎	1992	青森県八戸市新井田方言における身体感覚を表すオノマトペ	方言資料叢刊2(方言研究ゼミナール)	13-16	八戸市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
96	青森	論文	60	館光子	1992	方言随想「メドツ」ど「カダル」	方言誌あおもりけん10(青森・方言研究会)	53-55	八戸市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	「メドツ」(かっぱ)と「カダル」(参加する)に関する随想。
97	青森	論文	61	館花久二男	1992	ケガヅの話(1)	方言誌あおもりけん10(青森・方言研究会)	50-52	八戸市	《記述的研究》談話資料	八戸方言による、八戸の昔話の記述。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
98	青森	論文	62	葛西孜	1992	女子短大生の方言使用状況	方言誌あおもりけん10(青森・方言研究会)	1-13	全域	《記述的研究》語彙(意味・用法)/その他(方言意識)	女子短大生の方言使用に関する調査。
99	青森	論文	63	岡田一二三	1993	下北のサイとサマエ	方言誌あおもりけん11(青森・方言研究会)	32-33	下北地方、八戸市	《記述的研究》待遇表現	下北の待遇表現、雑感に近い。
100	青森	論文	64	館花久二男	1993	ケガツの話(2) その2 ハチネンケガツ 八年続いた飢饉	方言誌あおもりけん11(青森・方言研究会)	34-35	八戸市	《記述的研究》談話資料	八戸方言による、八戸の昔話の記述。
101	青森	論文	65	葛西孜	1993	「女性語」使用の実態と意識—女子短大生の場合—	方言誌あおもりけん11(青森・方言研究会)	1-31	全域	《記述的研究》語彙(意味・用法)/文法(条件表現/文末形式・文末表現)/その他(方言意識)	文末表現を中心に、女子短大生の女性語使用に関する調査。
102	青森	論文	66	川本栄一郎	1994	津軽と南部のことば	[国語論究4 現代語・方言の研究]	156-181	全域	《地理的分布》語彙(意味・用法)/文法(文法概説)	
103	青森	論文	67	川本栄一郎	1994	青森県と富山県における「かぼちゃ」の方言分布とその変遷	弘前大学国語国文学16(弘前大学国語国文学会)	1-21	東通村、六ヶ所村、三沢市、おいらせ町(百石町)、八戸市、階上町	《記述的研究》《地理的分布》語彙	
104	青森	論文	68	小泉智子	2003	六ヶ所村における方言語彙	弘学大語文29(弘前学院大学国語国文学会)	8-15	六ヶ所村	《記述的研究》《共通語化》語彙(意味・用法)	
105	青森	論文	69	佐藤亮一	2006	青森県における「あさっての翌々日」を意味するキササツテの由来について 大正大学学生、大坪俊介君の意見をヒントとして	国文学踏査18(大正大学国文学会)	304-312	東通村、六ヶ所村、三沢市、おいらせ町(百石町)、八戸市、階上町	《記述的研究》語彙(意味・用法/その他(語源))/《地理的分布》語彙(意味・用法)	地点はLAJに準拠。
106	青森	論文	70	吉田雅昭	2008	東北方言における基本的時間表現形式について 形式の変化と文法体系との相関	日本語の研究4-2(日本語学会)	45-60	八戸市	《記述的研究》文法(テンス・アスペクト)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
107	青森	論文	71	津田智史	2011	東北諸方言アスペクトの捉え方	東北文化研究室紀要52(東北大学大学院文学研究科東北文化研究室)	左21-35	六ヶ所村、三沢市、八戸市	《記述的研究》《地理的分布》文法(テンス・アスペクト)	調査地点は八戸市、三戸町、三沢市、十和田市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村、むつ市(むつ、大畑)、大間町、弘前市、黒石市、大鰐町、青森市、平内町(小湊、狩場沢)、外ヶ浜町(三厩)、鱒ヶ沢町、深浦町、五所川原市、中泊町。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
108	青森	市町村史	1	正部家奨	1977	階上町誌	階上町	799-830	階上町	《記述的研究》方言集	第五章 方言・訛語。
109	青森	市町村史	2	東通村史編集委員会	1997	東通村史 民俗・民俗 芸能編	東通村	376-433	東通村	《記述的研究》音声(音韻)/語彙/文法 (助詞)/その他	岡田一二三著 第九節 「言語」、エッセイ的な概 説あり。
110	青森	市町村史	3	八戸市史編纂委員会	2005	新編 八戸市史 別編 自然編	八戸市史編纂委員 会	485-501	八戸市	《記述的研究》語彙/その他	第2部 第6章 方言呼称 に関する一考察。
111	青森	市町村史	4	八戸市史編纂委員会	2010	新編 八戸市史 民俗 編	八戸市史編纂委員 会	519-539	八戸市	《記述的研究》方言集/その他	第七章 第二節 ことば・ 方言。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
112	岩手	書籍	1	田鎖直三	19--	南部地方方言訛語調草稿	田鎖直三	36	南部地方	《記述的研究》方言集	「築瀬栄氏ノ昭和38年11月起草、昭和39年1月発行(八戸印刷所)セル南部方言集ハ略之ニ同ジ」とある。
113	岩手	書籍	2	八重樫真	1922	釜石町方言誌	日本民俗研究会	116	釜石市	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(文法概説)	
114	岩手	書籍	3	田鎖直三	1928	気仙郡方言	田鎖直三	42	気仙郡	《記述的研究》方言集	国研『岩手県方言資料集2』所収。
115	岩手	書籍	4	上閉伊郡釜石尋常高等小学校郷土教育研究部	1931	釜石地方方言集	上閉伊郡釜石尋常高等小学校郷土教育研究部	23	釜石市	《記述的研究》方言集	国研『岩手県方言資料集1』所収。天体ノ部、地文ノ部などに分けられた語彙集。
116	岩手	書籍	5	下閉伊郡船越尋常高等小学校	1931	船越村ヲ中心トセル発音ノ誤リト方言訛語	下閉伊郡船越尋常高等小学校	16	山田町	《その他》	国研『岩手県方言資料集1』所収。発音の矯正や共通語教育を目的としたもの。
117	岩手	書籍	6	八重樫真	1932	岩手県釜石町方言誌	日本民俗研究会	116	釜石市	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	語数多い。
118	岩手	書籍	7	佐藤文治	1954	気仙地方のことば(社協シリーズ第2集)	大船渡市教育委員会	12	気仙地方(大船渡市)	《記述的研究》語彙(語彙/意味・用法)	気仙地方に見られる方言語彙について意味や語源などについてエッセイ的に解説。1972年第2版発行。
119	岩手	書籍	8	及川勝穂	1955	上閉伊郡方言集	遠野郷土研究会 岩手県立遠野高等学校社会研究会	68	上閉伊郡	?	遠野市立図書館蔵。未調査。
120	岩手	書籍	9	小松代融一	1959	岩手方言の語彙(岩手方言研究第三集)	岩手方言研究会	406	全域	《記述的研究》方言集	南部・伊達のどの市町村のものかは不明。
121	岩手	書籍	10	小松代融一	1961	岩手方言研究史考(岩手方言研究第二集)	岩手方言研究会	1085	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/方言集/語彙(意味・用法/その他(語源))/文法(助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)/《その他》先行研究一覧・先行研究の区画	分量多い。過去の研究・資料をまとめている。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
122	岩手	書籍	11	金野静一・菊池武人	1964	気仙方言誌	金野静一・菊池武人	170	気仙地方	《記述的研究》方言集/文法(文法概説)	
123	岩手	書籍	12	佐藤文治	1965	気仙ことば	気仙ことば刊行会	147	気仙地方	《記述的研究》方言集	
124	岩手	書籍	13	西井信男	1972	岩泉地方の方言訛語	岩泉町教育委員会	142	岩泉町	《記述的研究》方言集	巻末に「わらべ謡、はやしことば、譬集」あり。
125	岩手	書籍	14	松村佐紀子	1975	岩手県上閉伊郡大槌方言資料2	松村佐紀子	68	大槌町	《記述的研究》談話資料	
126	岩手	書籍	15	本堂寛	1976	岩手県閉伊川流域言語地図集	岩手大学教育学部国語学研究室	116	宮古市	《地理的分布》語彙(その他(語形))	『日本言語地図』にある75項目を閉伊川流域で調査し、地図化したもの。
127	岩手	書籍	16	岩手県教育委員会事務局文化課	1977	岩手県民俗地図—民俗文化財緊急分布調査報告書—	岩手県教育委員会	142	洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》語彙(その他(語形))	民俗地図。北海道教育委員会・青森県教育委員会・岩手県教育委員会編/天野武監修(2000)『都道府県別 日本の民俗分布地図集成1 北海道・東北地方の民俗地図1 北海道・青森・岩手』東洋書林所収。
128	岩手	書籍	17	金野菊三郎	1978	気仙方言辞典 付・音韻と語法	大船渡芸術文化協会	172	気仙地方	《記述的研究》音声(音声/音韻)/文法(活用/助詞/助動詞)/方言集/その他(諺)	
129	岩手	書籍	18	佐藤文治	1980	気仙ことば(第2版)	大船渡市立博物館	234	気仙地方	《記述的研究》方言集	佐藤文治(1965)の再版。内容はほとんど同じで、こちらは校正後書きが付されている。
130	岩手	書籍	19	本堂寛	1980	岩手県山田町 山田ことば辞典	岩手大学教育学部国語学研究室	185	山田町	《記述的研究》方言集/文法(助詞/助動詞)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
131	岩手	書籍	20	伊藤麟市	1982	宮古の方言と敬語	田中タイプ印刷	189	宮古市	《記述的研究》方言集/待遇表現(敬語)	「第一部 宮古の方言」として語彙集になっている。カタカナ表記。「第二部 敬語編」として具体的使用例を挙げながら語句レベルで解説を加えている。「第三部 宮古地方の諺譬えことば考」の補遺として俚諺も多少出る。巻末の近隣地域16地点の語彙対照表もあり。
132	岩手	書籍	21	大槌町民話研究会	1982	ふるさと大槌 吉里吉里方言辞典	三協企画出版部	63	大槌町	《記述的研究》方言集/言語行動(表現)	吉里吉里弁会話編として「店頭において」「トイレを尋ねるとき」などあり。
133	岩手	書籍	22	佐藤政五郎	1982	南部のことば	伊吉書院	373	洋野町、久慈市	《記述的研究》方言集	辞典。主は青森方言のため岩手の記述は少ない。
134	岩手	書籍	23	菅野嘉七	1989	気仙郡における方訛言の調査	共和印刷企画センター	255	気仙郡	《記述的研究》方言集	
135	岩手	書籍	24	堀米繁男	1989	種市のことば 沿岸北部編	種市町歴史民俗の会	224	洋野町	《記述的研究》方言集/文法(助詞/助動詞)	
136	岩手	書籍	25	山浦玄嗣	1989	ケセン語入門 改訂補足版	共和印刷企画センター	464	気仙地方	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント/イントネーション)/語彙(意味・用法)/文法(文法概説/助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	教科書風。
137	岩手	書籍	26	田老町教育委員会	1989	郷土民俗文化遺産ガイド ふるさと資料集	田老町教育委員会	9	宮古市(田老町)	《記述的研究》方言集	他に「民話伝説、口碑伝説、なぞなぞ遊び、俗信・迷信」などあり。
138	岩手	書籍	27	九里拓洋	1990	田野畑の諺(たとえひこく)	九里 拓洋	118	田野畑村	《記述的研究》方言集/その他(諺)	
139	岩手	書籍	28	山田町教育委員会	1990	山田の方言1	山田町教育委員会	50	山田町	《記述的研究》方言集	アイウエオ順。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
140	岩手	書籍	29	山浦玄嗣	1992	みんなのケセン語1	共和印刷企画センター	102	気仙地方	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/言語行動(表現)	非常に詳細な記述。
141	岩手	書籍	30	山浦玄嗣	1992	みんなのケセン語2	共和印刷企画センター	102	気仙地方	《記述的研究》音声(音声/音韻/イントネーション)/文法(文法概説/助詞/活用/テンス/条件表現)	非常に詳細な記述。
142	岩手	書籍	31	山田町教育委員会	1994	山田の方言2	山田町教育委員会	31	山田町	《記述的研究》語彙(語彙)/方言集/談話資料	『山田の方言1』に追加する語または新たに漁業関係用語集も附。三編の談話資料にも共通語対照で挙げられている。
143	岩手	書籍	32	坂口忠	1999	宮古のことば	坂口忠	300	宮古市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
144	岩手	書籍	33	山浦玄嗣	2000	ケセン語大辞典 上 1. 文法編 2. 語彙編(A~M)	無明舎出版	1445	気仙地方	《記述的研究》音声(音韻/アクセント/イントネーション)/語彙(意味・用法)/文法(文法概説/助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	分量多く、記述詳細。
145	岩手	書籍	34	山浦玄嗣	2000	ケセン語大辞典 下 2. 語彙編(N~Z・記号)付録・和ケ索引	無明舎出版	1366	気仙地方	《記述的研究》語彙(意味・用法)	分量多く、記述詳細。
146	岩手	書籍	35	平山輝男ほか編/齋藤孝滋・大野眞男・森下喜一執筆	2001	〈日本のことばシリーズ3〉岩手県のことば	明治書院	212	全域(特に久慈市、陸前高田市)	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/方言集/語彙(意味・用法)/文法(助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト)	概説書。
147	岩手	書籍	36	坂口忠	2001	宮古のことば2	坂口忠	351	宮古市	《記述的研究》語彙(意味・用法)/言語行動(表現)/談話資料	道での挨拶(朝、昼、夕、夜)やさまざまな言語行動が載っている。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
148	岩手	書籍	37	大橋純一	2002	東北方言音声の研究	おうふう	469	洋野町(種市町、大野村)、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市(宮古市、田老町、川井村)、大槌町	《記述的研究》《地理的分布》音声(音声)	被災地に関しては他に青森県八戸市、宮城県気仙沼市(本吉町)、仙台市、山元町、福島県楡葉町、いわき市が調査地点となっている。
149	岩手	書籍	38	田中宣廣	2005	付属語アクセントからみた日本語アクセントの構造	おうふう	548	宮古市	《記述的研究》音声(アクセント)	
150	岩手	書籍	39	関谷徳夫	2007	いとしく おかしく 懐かしく—私の吉里吉里語辞典	関谷徳夫	527	大槌町	《記述的研究》方言集	
151	岩手	書籍	40	大橋勝男	2008	太平洋沿岸方言音声の研究 上巻	おうふう	780	宮古市(川井村)	《記述的研究》音声(音声/アクセント)/談話資料	
152	岩手	書籍	41	大橋勝男	2008	太平洋沿岸方言音声の研究 下巻	おうふう	835	宮古市(川井村)	《記述的研究》音声(音声/アクセント)/談話資料	
153	岩手	書籍	42	堀米繁男	2008	種市のことば 解説編	種市町歴史民俗の会	227	洋野町	《記述的研究》方言集/語彙(意味・用法)	各語の用法が割合詳細に記されている。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
154	岩手	論文	1	橋正一	1931	岩手県のジャンケンの掛け声	方言と土俗2-3(一言社)	24-31	洋野町、久慈市、野田村、山田町、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》語彙	語数多い。説明あり。
155	岩手	論文	2	橋正一	1931	岩手県海岸の風の名	方言と土俗2-6(一言社)	11-13	洋野町、久慈市、宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》語彙	説明なし。
156	岩手	論文	3	八重樫真道	1934	鹿から鮭に—釜石町方言を中心に—	国語研究2-4(国語学研究会)	58-59	釜石市	《記述的研究》語彙(その他(語源))	
157	岩手	論文	4	宮良当壮	1941	宮城・岩手両県方言調査小報	方言研究3(日本方言学会)	61-67	大槌町、釜石市	《記述的研究》《地理的分布》音声(音韻)	記述少ない。
158	岩手	論文	5	日本方言研究所	1947	岩手方言の花園	日本の言葉1-3(日本の言葉研究会)	表紙4のみ	全域	《記述的研究》方言集	釜石や大槌などの方言が少し。
159	岩手	論文	6	東条操	1947	方言境界線の問題—岩手方言に例をとる—	日本の言葉1-3(日本の言葉研究会)	左19-20	全域	《地理的分布》音声(アクセント)/語彙	説明少ない。
160	岩手	論文	7	小松代融一	1952	「終助詞による敬意の表わし方」について(岩手県)	国研(52)報告	(74)	全域	《記述的研究》待遇表現	国立国語研究所の地方調査員報告。『地調(52)報告 終助詞による待遇表現(北海道・東北)』の中にとじられている。著者自身の原稿。
161	岩手	論文	8	小松代融一	1952	「これからの敬語」について(岩手県)	国研(52)報告	(61)	全域	《その他》	「これからの敬語」について岩手県方言の視点から検討する。
162	岩手	論文	9	柴田武	1955	日本語のアクセント体系	国語学21(国語学会)	44-69	宮古市	《地理的分布》音声(アクセント)	体系を表にまとめる。東京語との比較も少々。
163	岩手	論文	10	柴田武	1957	方言の手帳3 ズー弁	放送文化12-11(日本放送協会)	54-55	宮古市	《地理的分布》音声(音韻)	ズー弁を中心に東北地方から北陸、出雲地方の差を見たもの。
164	岩手	論文	11	鈴木仁	1958	陸前の方言アクセント	言語生活78(筑摩書房)	76のみ	陸前地方	《その他》	「ことば風土記」の中の一編。コラム的。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
165	岩手	論文	12	見坊豪紀	1960	小松代融一著「岩手方言の語彙」	言語生活102(筑摩書房)	75-76	全域	《その他》	書評、小松代融一『岩手方言の語彙』について。
166	岩手	論文	13	小松代融一	1961	岩手のことば	言語生活117(筑摩書房)	77-79	岩泉町、山田町	《記述的研究》音声(音韻)/語彙	コラム的。
167	岩手	論文	14	小松代融一	1961	方言の実態と共通語化の問題点 4岩手	[方言学講座2]	177-203	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/文法(助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	概説。
168	岩手	論文	15	柴田武	1961	ズーズー弁でない東北方言	国語学研究1(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	1-16	洋野町(種市町)、岩泉町	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)	岩泉や種市に見られる非ズーズー弁について。地点は岩泉町安家、岩泉町小本、種市町中野。
169	岩手	論文	16	柴田武	1962	岩手県岩泉付近の非ズーズー弁	国語学研究2(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	49-59	洋野町(種市町)、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市(宮古市、田老町、川井村)	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》音声(音声/音韻)	岩泉中心に周辺沿岸地域の調査、二拍・三拍名詞が主、ズーズー弁や全国の諸方言との歴史的関係の考察あり。
170	岩手	論文	17	小松代融一	1964	岩手県の方言区画	[日本の方言区画]	159-174	全域	《その他》/《地理的分布》文法(助詞/ボイス)/待遇表現(敬語)	先行研究の区画紹介と区画に関する問題点にも触れている。
171	岩手	論文	18	本堂寛	1964	岩手県方言における敬語秩序についての一考察	国語学研究4(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	24-37	洋野町、久慈市、野田村、普代村、宮古市、山田町、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》待遇表現(敬語)	調査結果・考察詳細。
172	岩手	論文	19	高橋圭三	1965	東北方言の味—南部地方のことば—	言語生活168(筑摩書房)	80-81	南部地方	《記述的研究》語彙(意味・用法)/その他	コラム、対象や調査方法の記述無し。
173	岩手	論文	20	佐藤喜代治	1966	岩手県三陸地方北部の言語調査報告	日本文化研究所研究報告 別巻4(東北大学日本文化研究所)	11-56	洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)文法(助詞/活用/条件表現)/《地理的分布》音声(音韻/アクセント)/語彙(意味・用法)/文法(助詞)	分量多く詳細。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
174	岩手	論文	21	坂口忠	1966	岩手県宮古市方言語彙	研究紀要3(宮古市教育研究所)	1-113	宮古市	《記述的研究》方言集	
175	岩手	論文	22	日本放送協会	1966	3 岩手県宮古市高浜	[全国方言資料 第一巻 東北・北海道編]	81-140	宮古市	《記述的研究》談話資料	自由会話×2、あいさつ。
176	岩手	論文	23	川本栄一郎	1967	三陸地方北部におけるサ行音とザ行音	日本方言研究会第4回発表原稿集	?	三陸地方	?	未調査。
177	岩手	論文	24	坂口忠	1967	岩手県宮古市方言文法教育序説	研究紀要4(宮古市教育研究所)	1-58	宮古市	《記述的研究》文法(助詞/活用/その他(指示表現/質問・疑問))/言語行動(表現)/待遇表現(敬語)/《その他》方言教育/方言資料	
178	岩手	論文	25	本堂寛	1967	岩手県方言の系統と区画について	一関工高専研究紀要1(一関工業高等専門学校)	431-459	洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》文法(活用/条件表現/文末形式・文末表現)	分布図多数。
179	岩手	論文	26	日本放送協会	1967	1 岩手県九戸郡種市町中野	[全国方言資料 第七巻 辺地・離島編 1(東北・関東)]	29-56	洋野町(種市町)	《記述的研究》談話資料	自由会話×2、あいさつ。
180	岩手	論文	27	本堂寛	1968	岩手県方言における文末助詞「ナハン」について	国語学研究8(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	11-20	洋野町、岩泉町、宮古市、釜石市	《地理的分布》《世代差》文法(助詞/文末形式・文末表現)	男女差に関する記述含む。
181	岩手	論文	28	川本栄一郎	1969	三陸地方北部における「ソ・ザ・ジョ・ジャ」の分布と解釈	国語学研究9(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	1-12	洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市	《記述的研究》《地理的分布》音声(音韻)	広く沿岸北部全域に渡って音韻を記述。
182	岩手	論文	29	本堂寛	1970	文頭表現・文末表現に示される女性語意識—主として北奥方言について—	国語学研究10(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	36-58	九戸郡、気仙郡、久慈市、宮古市、釜石市、大船渡市	《記述的研究》《地理的分布》文法(文末形式・文末表現)/その他(方言意識/その他)	文末表現のほか文頭の簡単表現など、東北全般を対象、女性意識に関する考察等あり。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
183	岩手	論文	30	佐藤喜代治・加藤正信	1972	三陸地方南部の言語調査報告	日本文化研究所研究報告 別巻8・9 (東北大学日本文化研究所)	1-51	山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》音声(音韻/アクセント)/語彙(その他(語形))/文法(助詞/ボイス/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	分量多く詳細。
184	岩手	論文	31	加藤昭	1973	岩手県宮古市白浜の自然会話	フィールドの歩み4 (東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	117-134	宮古市	《記述的研究》談話資料	被調査者の自宅で録音した会話の書き落とし、音素表記、アクセントやイントネーションの記述あり。
185	岩手	論文	32	青柳精三	1973	東北の東海岸における方位潮流語彙の概観	フィールドの歩み4 (東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	49-69	久慈市、野田村、普代村、宮古市(田老町)、大槌町、大船渡市(三陸町)	《地理的分布》語彙	岩手県久慈市久喜より茨城県日立市川尻に至る22の漁港で、漁歴の長い人から聞き取り調査をしたもの。
186	岩手	論文	33	本堂寛	1977	地域社会の共通語化 岩手県下閉伊郡川井村の言語変容	文芸研究84(日本文芸研究会)	50-59	宮古市(川井村)	《共通語化》音声(音韻/アクセント)/文法(助詞/活用/ボイス/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	旧川井村は内陸側。沿岸部からは遠い。
187	岩手	論文	34	田中信	1981	九戸郡地方方言集	岩手方言10(岩手方言研究会)	3-5	久慈市	《記述的研究》方言集	説明なし。
188	岩手	論文	35	小松代融一	1982	うざね舎雑筆11	岩手方言12(岩手方言研究会)	1-12	全域	《地理的分布》語彙	分量少なめ。
189	岩手	論文	36	本堂寛	1982	岩手県の方言	[講座方言学4 北海道東北地方の方言]	238-269	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/文法(助詞/活用/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)/その他/《地理的分布》音声(音声/音韻/アクセント)/文法(活用/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)/その他	見出しには「語彙」とあるものの今後の研究への提言にとどまる、岩手全般としながらも盛岡市・一関市が中心のため被災地との関わりは薄いか。
190	岩手	論文	37	森下喜一	1982	岩手アクセントの特徴と分布について 名詞を中心に	国語研究45(学院大学国語研究会)	14-39	久慈市、岩泉町、宮古市、釜石市、大船渡市	《地理的分布》音声(アクセント)	一拍・二拍・三拍名詞のアクセントの地理的分布、広く県全域を調査している。
191	岩手	論文	38	齋藤孝滋	1987	「語中における子音の有声化現象」の音韻論的解釈 岩手方言を中心に	語文論叢15(千葉大学人文学部国語国文学会)	86-64	大船渡市(三陸町)	《記述的研究》音声(音声/音韻)	盛岡、久慈、安代地域と関連して。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
192	岩手	論文	39	齋藤孝滋	1987	岩手方言における拍の統合現象共通語の「ル」と「リ」、「ヌ」と「ニ」に対応する拍について	日本語研究9(東京都立大学国語学研究室)	45-53	久慈市	《地理的分布》音声(音韻)	久慈の記述は少なめ。
193	岩手	論文	40	岩手県聯合教育会	1988	言語の訛謬1	岩手方言24(岩手方言研究会)	4-5	九戸郡	《共通語化》語彙	方言矯正。
194	岩手	論文	41	岩手県聯合教育会	1989	言語の訛謬2	岩手方言25(岩手方言研究会)	5-7	下閉伊郡	《共通語化》音声(音韻)/文法(助詞)	方言矯正。
195	岩手	論文	42	大西拓一郎	1989	岩手県山田町方言のアクセント	国語学研究29(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左1-10	山田町	《記述的研究》音声(アクセント)	アクセントの規則を示す。
196	岩手	論文	43	山浦玄嗣	1989	はい?いいえ?ケセン語・ウンツェハアの謎	言語18-1(大修館書店)	86-89	気仙地方	《記述的研究》語彙(意味・用法)	応答詞について。分量少ない。
197	岩手	論文	44	齋藤孝滋	1990	岩手方言における語中子音有声化現象 音環境・語彙的事情・世代の観点から	国語学研究30(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左57-70	大船渡市	《記述的研究》音声(音韻)	記述の主は一関市。
198	岩手	論文	45	大西拓一郎	1991	岩手県下閉伊郡山田町における祝言のあいさつ	方言資料叢刊1(方言研究ゼミナール)	40-46	山田町	《記述的研究》言語行動(表現)	用例多いが説明なし。
199	岩手	論文	46	大橋勝男	1991	日本諸方言についての記述的研究(19)岩手県下閉伊郡川井村川内方言について	新潟大学教育学部紀要.人文・社会科学編32-2(新潟大学教育学部)	215-238	宮古市(川井村)	《世代差》音声(音韻/アクセント/イントネーション)	詳細。
200	岩手	論文	47	加藤正信・村上雅孝・神戸和昭・齋藤孝滋・武田拓・半沢康	1991	南部・伊達藩境地帯における方言分布調査の報告と考察	日本文化研究所研究報告 別巻28(東北大学日本文化研究所)	55-85	釜石市、大船渡市	《記述的研究》音声(音韻)/語彙(意味・用法)/文法(条件表現)/《地理的分布》語彙(意味・用法)	浜荻など古方言集と方言分布との関係にも触れている。
201	岩手	論文	48	齋藤孝滋	1991	岩手方言における語中子音鼻音化現象 音環境・語彙的事情・世代の観点から	語文論叢19(千葉大学文学部国語国文学会)	91-79	大船渡市(三陸町)	《記述的研究》音声(音韻)/文法(助詞)/その他	語彙や世代差と関連して音声について述べている、調査は三段階に分けて実施。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
202	岩手	論文	49	小松代融一	1992	岩手師範学校方言集(上)	岩手方言32(岩手方言研究会)	5-11	九戸郡、気仙郡	《地理的分布》語彙	説明なし。
203	岩手	論文	50	大西拓一郎	1992	三陸沿岸地域方言のアクセント語彙(1)金田一語彙 名詞	[東日本の音声 論文編2]	19-39	洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、宮古市、山田町、大槌町	《地理的分布》音声(アクセント)	調査語数多い。
204	岩手	論文	51	大西拓一郎	1992	岩手県宮古市愛宕方言における身体感覚を表すオノマトベ	方言資料叢刊2(方言研究ゼミナール)	17-20	宮古市	《記述的研究》語彙(その他(オノマトベ))	説明少々あり。
205	岩手	論文	52	大西拓一郎	1992	岩手県下閉伊郡山田町方言における身体感覚を表すオノマトベ	方言資料叢刊2(方言研究ゼミナール)	21-25	山田町	《記述的研究》語彙(その他(オノマトベ))	説明少々あり。
206	岩手	論文	53	齋藤孝滋	1992	岩手方言における語中子音有声化・鼻音化現象 言語内的・外的要因の観点から	国語学168(国語学会)	左1-14	大船渡市(三陸町)	《地理的分布》《世代差》音声(音声)/その他(方言意識)	世代別の有声化・鼻音化の傾向、有声化・鼻音化に対する意識の調査。
207	岩手	論文	54	齋藤孝滋	1992	母音無声化の「広さ」と「強さ」岩手方言を中心にして	国語学研究31(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左39-50	久慈市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》音声(音声)	母音無声化の度合いを段階づけ。
208	岩手	論文	55	大西拓一郎	1993	三陸沿岸地域方言のアクセント語彙(2)金田一語彙 動詞・形容詞	[東日本の音声 論文編3 —主要都市 多人数調査(札幌・市名古屋市)報告]	1-18	洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、宮古市、山田町、大槌町	《地理的分布》音声(アクセント)	調査語数多い。
209	岩手	論文	56	齋藤孝滋	1993	岩手県三陸町綾里方言の音韻	東北大学文学部日本語学科論集3(東北大学文学部日本語学科)	37-48	大船渡市	《記述的研究》音声(音韻)	分量多い。共通語との対応も。
210	岩手	論文	57	大西拓一郎	1994	岩手県九戸郡種市町平内方言の Aspekte	方言資料叢刊4(方言研究ゼミナール)	15-18	洋野町(種市町)	《記述的研究》音声(音声/音韻)/文法(テンス・アスペクト)	調査結果の記述、音韻表記、アスペクトについて言及あり。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
211	岩手	論文	58	齋藤孝滋	1994	岩手方言における/o'e, o'i/融合現象の動態とその要因	〔ことばの世界 北海道方言研究会20周年記念論文集〕	176-183	大船渡市	《グロットグラム》音声(音韻)	計量的。
212	岩手	論文	59	山浦玄嗣	1994	麗しきケセン語	日本語論2-1(山本書房)	62-64	気仙地方	《その他》	『ケセン語入門』執筆にあたって。
213	岩手	論文	60	大西拓一郎	1995	岩手県種市町平内方言の用言の活用	〔研究報告集16<国立国語研究所報告110>〕	57-98	洋野町(種市町)	《記述的研究》音声(音韻)/文法(助詞/活用/テンス・アスペクト)	青森・八戸など隣接方言との関係、通時的観点からの考察あり。
214	岩手	論文	61	山浦玄嗣	1996	ケセン語複合動詞の音調規則	〔言語学林 1995-1996〕	235-253	気仙地方	《記述的研究》音声(アクセント)	用例豊富。
215	岩手	論文	62	齋藤孝滋	1997	岩手方言における語中/w/の動態要因とバリエーションの計量的推定	国語学研究36(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左1-12	大船渡市	《共通語化》音声(音声/音韻)/その他(方言意識)/《世代差》音声(音声/音韻)	計量的。今後の予測も。
216	岩手	論文	63	齋藤孝滋	2001	岩手県久慈市方言における形容詞活用体系	都大論究38(東京都立大学国語国文学会)	53-62	久慈市	《記述的研究》音声(音声)/文法(活用)	
217	岩手	論文	64	澤村真貴子	2001	岩手県方言区画試論	弘学大語文27(弘前学院大学国語国文学会)	1-11	全域	《記述的研究》その他(文法・アクセント・語彙による区画)	先行研究の区画図を統合。
218	岩手	論文	65	齋藤孝滋	2002	岩手県久慈市方言の音韻対応—共通語との対応を中心として	玉藻38(フェリス女学院大学国文学会)	1-16	久慈市	《記述的研究》音声(音韻)	
219	岩手	論文	66	田中宣廣	2003	陸中宮古方言アクセントの実相	国語学54-4(国語学会)	44-59	宮古市	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)	ピッチグラムを用いている、重起伏アクセント等含む。
220	岩手	論文	67	齋藤孝滋	2006	岩手方言における形容詞の特徴：活用体系と音声文法の視点から	フェリス女学院大学文学部紀要41(フェリス女学院大学)	61-68	久慈市	《記述的研究》音声(音声)/文法(活用)	形容詞の活用・語幹と音声との関係について、地理的なことには多く触れていない。
221	岩手	論文	68	作田将三郎	2006	東北地方における<雷>の地方語史	文化69-3・4(東北大学文学会)	左58-77	宮古市、大槌町、陸前高田市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(その他(語史))	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
222	岩手	論文	69	山浦玄嗣	2008	20年目のウンツェハア—岩手県気仙地方における対否定疑問文応答形式の経時的変化	日本方言研究会第87回発表原稿集	69-76	気仙地方	《世代差》文法(その他(応答詞))	
223	岩手	論文	70	田中宣廣	2009	地域言語の理解法—岩手県域諸方言の例から	岩手県立大学宮古短期大学部研究紀要20-1(岩手県立大学宮古短期大学部)	1-10	宮古市	《記述的研究》音声(音韻)/言語行動(その他(買い物時のやりとり))	主旨は方言の正しい理解のための方法。宮古方言は例であり記述少ない。
224	岩手	論文	71	小島聡子	2010	研究ノート 岩手県で用いられる特徴的な言葉について	アルテス リベラレス86(岩手大学人文社会学部)	69-86	久慈市、野田村、岩泉町、釜石市、宮古市、山田町、大槌町、大船渡市	《記述的研究》語彙(意味・用法)/その他(記号の読み方)	「はこいち」と読むか「しかくいち」と読むか、「特にも」用法・用例。
225	岩手	論文	72	田中宣廣	2012	アクセント—三陸地方南部地域—	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	33-43	山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《記述的研究》《地理的分布》音声(アクセント)	宮城県北から岩手県南にかけての地理的な調査が含まれている。具体的な調査地点は以下の通り(被災地以外も含む)。下閉伊郡山田町船越・上閉伊郡大槌町大槌・釜石市釜石・釜石市白浜(平田)・釜石市唐丹・釜石市洞泉・遠野市・大船渡市吉浜・大船渡市越喜来・大船渡市綾里・大船渡市大船渡・陸前高田市小友・陸前高田市矢作・一関市。
226	岩手	論文	73	竹田晃子	2012	ヴォイス(受身・可能)	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	73-86	山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》文法(ボイス)	72に同じ。
227	岩手	論文	74	竹田晃子	2012	テンス・アスペクト	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	87-98	山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》文法(テンス・アスペクト)	72に同じ。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
228	岩手	論文	75	櫛引祐希子	2012	方言特有の「イキナリ」「ナゲル」「オチル」の分布状況	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	141-152	山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》語彙(意味・用法)	72に同じ。
229	岩手	論文	76	中西太郎	2012	あいさつ表現	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	189-208	山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》《世代差》言語行動(あいさつ表現)	72に同じ。
230	岩手	論文	77	椎名渉子	2012	寝かせつけ場面を中心とした育児の言語行動	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	209-221	山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》言語行動(表現)	72に同じ。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
231	岩手	市町村史	1	川井村郷土誌 編纂委員会	1962	川井村郷土誌 下巻	川井村役場	630-657	宮古市(川井村)	《記述的研究》方言集	第九篇 第四章 第一節 方言。
232	岩手	市町村史	2	県教育会九戸郡部会	1972	九戸郡誌	名著出版	498-554	九戸郡	《記述的研究》方言集	第九章 八 方言 昭和11年岩手県教育会九戸郡部会編纂により刊行されたものの複製版。
233	岩手	市町村史	3	関口喜多路	1980	岩泉地方史 下巻	岩泉町教育委員会	603-749	岩泉町	《記述的研究》方言集	第十七章 岩泉地方の方言訛語。
234	岩手	市町村史	4	大船渡市史編 集委員会	1980	大船渡市史 第四巻	大船渡市	345-612	気仙郡、大船渡市	《記述的研究》言語行動	p.345-391俚諺、俗諺など、共通語形も多いが、一部に方言例あり。 p.531-612気仙地方の民謡や童唄について一部方言形。 p.393-529気仙地方の伝説、一部方言形。 その他、第一章、第二章にも「衣食住」や「生産・生業」に関する語彙が多少本文の中で紹介されている。
235	岩手	市町村史	5	三陸町史編集 委員会	1988	三陸町史 第五巻 民俗一般編	三陸町	569-616	大船渡市(三陸町)	《記述的研究》方言集	『郷土教育資料(紀元二千六百年記念事業、綾里小学校編)』を中心に、『気仙方言誌(金野静一・菊池武人著)』・『岩手気仙の方言(菊池武人著)』・『気仙ことば(佐藤文治著)』・『気仙方言辞典(金野菊三郎著)』を参照したもの。菊池武人執筆。
236	岩手	市町村史	6	三陸町史編集 委員会	1990	三陸町史 第一巻 自然・考古編	三陸町史刊行委員会	49-53	大船渡市(三陸町)	《記述的研究》その他	魚の名前。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
237	岩手	市町村史	7	陸前高田市史編集委員会	1992	陸前高田市史 第六巻 民俗編下	陸前高田市	107-203	陸前高田市	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/方言集/文法(文法概説/活用)/《地理的分布》語彙(語形)	第二章 言語・方言 第一節 気仙地方(特に陸前高田)方言の特色、第二節 江戸時代の語彙。第二節は「文化から天保年間にかけて、旧今泉村の菅野久助が記した文章から拾った方言形を紹介する」。
238	岩手	市町村史	8	田野畑村芸術文化協会	1994	新たのはた風土記	田野畑村芸術文化協会	256-262	田野畑村	《記述的研究》語彙(意味・用法)/その他	田野畑方言と京言葉・エゾ語との関わりについて、地名由来。
239	岩手	市町村史	9	陸前高田市史編集委員会	1994	陸前高田市史 第一巻 自然編	陸前高田市	375-388	陸前高田市	《記述的研究》方言集	『新岩手風土記(瀬川経郎著)』を参考にし、地域の古老からも採取したものの。
240	岩手	市町村史	10	普代村郷土史編纂委員会	2003	普代村郷土史	普代村	1072-1116	普代村	《記述的研究》語彙(意味・用法)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
241	宮城	書籍	1	猪苗代兼郁	1720	仙台言葉以呂波寄	—	—	仙台市	《記述的研究》方言集	『近世方言辞書 第二輯』(港の人・2000)に広本系の「仙台言葉伊呂波寄」の影印、『近世仙台方言書 翻刻編』(明治書院・1995)に略本系の「仙台言葉」の翻刻がある。『近世方言辞書 第二輯』、『近世仙台方言書 研究編』(明治書院・1995)で解説がなされている。
242	宮城	書籍	2	大北溟・岡文鶴	1736	燈心野語	—	—	仙台市	《記述的研究》方言集	『近世仙台方言書 翻刻編』(明治書院・1995)に翻刻がある。『近世仙台方言書 研究編』(明治書院・1995)で解説がなされている。
243	宮城	書籍	3	燕々軒	1776	俳諧夷艸	—	—	仙台市	《記述的研究》方言集	『近世仙台方言書 翻刻編』(明治書院・1995)に翻刻がある。『近世仙台方言書 研究編』(明治書院・1995)で解説がなされている。
244	宮城	書籍	4	堀田正敦	1785頃	仙台言葉	—	—	仙台市	《記述的研究》方言集	『近世方言辞書 第二輯』(港の人・2000)に影印、『近世仙台方言書 翻刻編』(明治書院・1995)に翻刻がある。『近世方言辞書 第二輯』、『近世仙台方言書 研究編』(明治書院・1995)で解説がなされている。
245	宮城	書籍	5	未詳	江戸末期か	仙台浜菰	—	—	仙台市	《記述的研究》方言集	『近世方言辞書 第一輯』(港の人・1999)に影印、『近世仙台方言書 翻刻編』(明治書院・1995)に翻刻、『近世方言辞書 第一輯』、『近世仙台方言書 研究編』(明治書院・1995)に解説がある。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
246	宮城	書籍	6	櫻田欽斎	1818頃	仙台方言	—	—	仙台市	《記述的研究》方言集	『近世方言辞書 第二輯』(港の人・2000)に影印、『近世仙台方言書 翻刻編』(明治書院・1995)に翻刻がある。『近世方言辞書 第二輯』、『近世仙台方言書 研究編』(明治書院・1995)で解説がなされている。
247	宮城	書籍	7	贅庵	1827	方言達用抄	—	—	仙台市	《記述的研究》方言集	『近世方言辞書 第二輯』(港の人・2000)に影印、『近世仙台方言書 翻刻編』(明治書院・1995)に翻刻がある。『近世方言辞書 第二輯』、『近世仙台方言書 研究編』(明治書院・1995)で解説がなされている。
248	宮城	書籍	8	小倉博	1827	標準語励行と方言掃滅	読売宮城	?	?	?	書籍不明。『20世紀方言研究の軌跡』にはあるが確認できず。
249	宮城	書籍	9	伊勢斎助	1916	増訂仙臺史傳;仙臺方言考	裳華房	69	仙台市	《記述的研究》方言集	「増訂仙臺史傳」「仙臺方言考」の合本。
250	宮城	書籍	10	土井八枝	1919	仙台方言集	土井八枝	90	仙台市	《記述的研究》方言集/文法(文法概説)	
251	宮城	書籍	11	仙台税務監督局	1920	東北方言集	東北印刷株式会社出版部	185	全域	《記述的研究》方言集	
252	宮城	書籍	12	仙台叢書刊行会	1925	仙台叢書第八卷(「仙台言葉以呂波寄」「方言達用抄」「仙台方言」所収)	仙台叢書刊行会	462	仙台市	《記述的研究》方言集	
253	宮城	書籍	13	弁天丸孝	1932	石の巻弁 語彙篇	郷土社書房	40	石巻市	《記述的研究》方言集	「石の巻弁 別冊」との二冊組。部数限定発行。
254	宮城	書籍	14	弁天丸孝	1932	石の巻弁 別冊	郷土社書房	20	石巻市	《記述的研究》方言集	「石の巻弁 語彙編」の分類索引目録。名詞、代名詞等の分類ごとに並べられている。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
255	宮城	書籍	15	小倉進平	1932	仙台方言音韻考(言語誌叢刊)	刀江書院	454	仙台市	《記述的研究》音声(音韻)	
256	宮城	書籍	16	真山彬	1936	仙台方言考(言語誌叢刊)	刀江書院	181	仙台市	《記述的研究》方言集	
257	宮城	書籍	17	土井八枝	1938	仙台の方言	春陽堂	341	仙台市	《記述的研究》方言集	
258	宮城	書籍	18	佐藤喜代治	1950	宮城県方言の概観	国研報告書	150	気仙沼市(小泉村)、南三陸町(志津川町)、石巻市(雄勝村)、名取市(千貫村)、亶理町(新浜町)、山元町(坂元村)	《地理的分布》音声(音声/音韻)/語彙(意味・用法)/文法(助詞/活用/文末形式・文末表現)	全29地点。筆者自筆の原稿。
259	宮城	書籍	19	佐藤喜代治	1951	宮城県方言音韻の特徴形の実態	国研報告書	64	利府町(利府村)	《記述的研究》音声(音声/音韻)	利府村の他、加美郡宮崎村、柴田郡村田村も。筆者自筆の原稿。
260	宮城	書籍	20	佐藤喜代治	1951	仙台本草	国研報告書	96	仙台市	《記述的研究》方言集	『仙台本草』の中から、「仙台方言の記載されているもののみをぬきだし」たもの。
261	宮城	書籍	21	田村寂秋	1951	仙台方言集(1998年改訂発行)	通信文化の会	84	仙台市	《記述的研究》音声(音韻)/方言集	
262	宮城	書籍	22	石川鈴子	1966	自伝的仙台弁	審美社	170	仙台市	《記述的研究》方言集	福島。
263	宮城	書籍	23	浮田章一	1974	宮城県牡鹿半島における言語調査	浮田章一	38	石巻市(牡鹿町鮎川浜、牡鹿町十八成浜)	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
264	宮城	書籍	24	浮田章一	1975	宮城県牡鹿半島における言語調査	浮田章一	7	石巻市(牡鹿町鮎川浜、牡鹿町十八成浜)	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
265	宮城	書籍	25	浮田章一	1975	宮城県牡鹿半島における言語調査 鮎川・網地島・金華山	浮田ゼミ	8	石巻市(牡鹿半島)	《記述的研究》語彙(意味・用法)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
266	宮城	書籍	26	土井八枝	1975	仙台の方言(再刊)(原本は1938年刊)	国書刊行会	341	仙台市	《記述的研究》方言集	
267	宮城	書籍	27	仙台郵政監察局	1975	東北方言集(再刊)(原本は1920年8月刊)	国書刊行会	185	気仙沼市(気仙沼地方)	《記述的研究》方言集	
268	宮城	書籍	28	浮田章一ほか	1976	宮城県牡鹿町と女川町における言語調査 鮎川浜・江島	女子聖学院短大浮田ゼミ	32	女川町	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
269	宮城	書籍	29	宮城県教育委員会	1977	宮城県民俗分布図—緊急民俗資料分布調査報告書—	宮城県教育委員会	96	気仙沼市(唐桑町、気仙沼市、本吉町)、南三陸町(歌津町、志津川町)、石巻市(北上町、雄勝町、牡鹿町、石巻市、河北町、河南町)、女川町、東松島市(矢本町、鳴瀬町)、松島町、利府町、塩竈市、七ヶ浜町、仙台市(泉市、仙台市、宮城町、秋保町)、名取市、岩沼市、亶理町、山元町	《地理的分布》語彙(その他(語形))	民俗地図。目次の表記は「宮城県民俗地図」、奥付の表記は「宮城県民俗分布地図」。宮城県教育委員会・秋田県教育委員会・山形県教育委員会・福島県教育委員会編/天野武監修(2000)『都道府県別 日本の民俗分布地図集成 第2巻 北海道・東北地方の民俗地図 2 宮城・秋田・山形・福島』東洋書林所収。
270	宮城	書籍	30	女子聖学院短大浮田ゼミ	1977	宮城県女川町出島における言語調査1 出島	女子聖学院短大浮田ゼミ	12	女川町	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
271	宮城	書籍	31	女子聖学院短大浮田ゼミ	1978	宮城県牡鹿郡女川町における二度目の言語調査 出島・寺間	女子聖学院短大浮田ゼミ	6	女川町	《記述的研究》語彙(意味・用法)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
272	宮城	書籍	32	佐藤忠雄	1981	仙台方言攷—音韻と語法—	溪聲出版	184	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻)/文法(活用/テンス・アスペクト/助詞/助動詞/その他(名詞/数詞/代名詞/形容詞/形容動詞/副詞/副体詞/接続詞/感動詞))	宮城県仙台以南の地方。
273	宮城	書籍	33	浅野建二	1981	仙台方言辞典	東京堂出版	378	仙台市	《記述的研究》方言集	旧仙台領一般。
274	宮城	書籍	34	西条弥一郎	1984	南三陸地方の方言	西条弥一郎	70	石巻市(北上町)	《記述的研究》方言集	
275	宮城	書籍	35	仙台文化出版社	1986	仙台弁句辞典(せんだい新書1)	仙台文化出版社	198	仙台市	《記述的研究》方言集	
276	宮城	書籍	36	西村源太郎	1989	仙台原町方言集(せんでいはらまづほおげんすう)	西村源太郎	74	仙台市宮城野区(原町)	《記述的研究》方言集	
277	宮城	書籍	37	田村正夫	1990	滅び行く方言 岩沼地方編	田村正夫	199	岩沼市(岩沼町)	《記述的研究》方言集	
278	宮城	書籍	38	渋谷信義	1992	ケンケン鳥お背戸のズサぬ木 明治初期仙台亙理から伊達開拓移住者達の会話	北海道新聞社出版局	231	亙理町	《記述的研究》方言集	
279	宮城	書籍	39	山浦玄嗣	1992	みんなのケセン語1	共和印刷企画センター	102	気仙沼市	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント/その他)	著者が方言の勉強会のために自作したテキスト。独特の表記とカタカナなどを用いて記されており、内容は充実している。非常に詳細な記述。
280	宮城	書籍	40	山浦玄嗣	1992	みんなのケセン語2	共和印刷企画センター	102	気仙沼市	《記述的研究》音声(音声/音韻/イントネーション)/文法(文法概説/助詞/活用/テンス/条件表現)	著者が方言の勉強会のために自作したテキスト。独特の表記とカタカナなどを用いて記されており、内容は充実している。非常に詳細な記述。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
281	宮城	書籍	41	仙台文化出版社	1993	続仙台弁句辞典	仙台文化出版社	177	仙台市	《記述的研究》方言集	仙台市及び旧仙台領地域において、現在(1993年時点)も日常の会話に使用されているものが中心。採録されている語の使用例は、「仙台郷土句帖」及び、読売新聞宮城県版に掲載されていた天江富弥選「仙台弁句」の中から選び、仙台郷土句会の横山彦平、富田博、大友靖彦による校閲を受けている。
282	宮城	書籍	42	田村昭	1993	仙台方言集付・東北の方言10版改訂	宝文堂	84	仙台市	《記述的研究》方言集	
283	宮城	書籍	43	鈴木與藏	1993	七ヶ浜の言葉	鈴木與藏	74	七ヶ浜町	《記述的研究》方言集	
284	宮城	書籍	44	菊池武人	1995	近世仙台方言書 翻刻編	明治書院	673	仙台市	《記述的研究》方言集	旧仙台藩。『濱萩』など、近世の方言書の翻刻。
285	宮城	書籍	45	菊池武人	1995	近世仙台方言書 研究編	明治書院	480	仙台市	《記述的研究》方言集	旧仙台藩(翻刻版の検討)。方言と方言集ができた当時の時代背景。
286	宮城	書籍	46	菊池武人	1996	近世仙台方言書 続翻刻編	明治書院	506	仙台市	《記述的研究》方言集	旧仙台藩。『濱萩』など、近世の方言書の翻刻。
287	宮城	書籍	47	小山正平	1997	わたくしの音語論 三陸地方の古代史を読み解く	小山正平	301	気仙沼市(三陸地方)	《記述的研究》方言集	方言語意を音節レベルに語源解釈する。きわめて独特な見解を展開。
288	宮城	書籍	48	半沢康・小林初夫・武田拓	1998	宮城・福島沿岸地域におけるグロットグラム調査報告	科研報告書	49	亘理町、山元町	《グロットグラム》音声(音韻)/語彙/文法(助詞/活用/アスペクト)/待遇表現(待遇表現/敬語)	
289	宮城	書籍	49	仙台市史編さん委員会	1998	音でたずねる仙台の民俗 仙台市史 特別編6 民俗 付録	仙台市	14	仙台市	《記述的研究》談話資料	小さい冊子とCDのセット。CDに方言解説と挨拶場面など10例の会話が収録されている。その他、CDには民謡、昔話も収録。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
290	宮城	書籍	50	佐々木徳夫	1999	話すてけらしえ仙台弁	無明舎出版	174	仙台市	《記述的研究》談話資料	
291	宮城	書籍	51	佐藤武義・木村晟・山田瑩徹・古瀬順一・片山晴賢編/小林隆解題	1999	近世方言辞書 第一輯 仙台浜荻	港の人	512	仙台市	《記述的研究》方言集	仙台浜荻の影印本。
292	宮城	書籍	52	京野清一編集/阿部逸郎・高橋鉄雄・阿部勝江・高橋美代子・阿部和子編纂	2000頃	石巻地区東北弁集	京野清一	52	石巻市	《記述的研究》方言集	
293	宮城	書籍	53	佐藤武義・木村晟・山田瑩徹・古瀬順一・片山晴賢編/佐藤武義・遠藤仁・樋渡登解題	2000	近世方言辞書 第二輯 御国通辞;仙台言葉以呂波寄;仙台言葉;方言達用抄;仙台方言;庄内浜荻;庄内方言音攷	港の人	582	仙台市	《記述的研究》方言集	御国通辞、仙台言葉以呂波寄、仙台言葉、方言達用抄、仙台方言、庄内浜荻、庄内方言音攷の影印本。
294	宮城	書籍	54	後藤彰三	2001	胸ば張って仙台弁 めくもり伝えるふるさとことば	宝文堂	297	仙台市	《記述的研究》音声(音声/アクセント)/語彙(語彙)/文法(助詞/助動詞/活用/文末形式・文末表現/その他(接頭辞/感動詞))/待遇表現(敬語)/その他/《地理的分布》語彙(語形)	その他として、俚諺・言い伝え・わらべ歌・民謡・方言文芸などの民俗編と、共通語・仙台弁対照表、語誌編、補説がある。
295	宮城	書籍	55	大橋純一	2002	東北方言音声の研究	おうふう	469	仙台市、山元町、気仙沼市(本吉町)	《記述的研究》《地理的分布》音声(音声)	全地点共通調査の一部。仙台市は特定地点(地域)調査の一地点でもある。被災地に関しては他に青森県八戸市、岩手県洋野町(種市町、大野村)、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市(宮古市、田老町、川井村)、大槌町、福島県檜葉町、いわき市が調査地点となっている。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
296	宮城	書籍	56	井上史雄・玉井宏児・遣水兼貴	2003	東北・北海道方言の地理的・年齢的分布(THグロットグラム)	東京外国語大学	196	松島町	《グロットグラム》語彙/文法(助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/条件表現/文末形式・文末表現/その他)	一部被災地該当。
297	宮城	書籍	57	加藤正信・大橋純一・武田拓・半沢康	2004	関東・東北境界域言語地図 常磐線・磐越東線グロットグラム	いわき明星大学人文学部加藤正信研究室	379	仙台市、名取市、亶理町、山元町	《グロットグラム》音声(音韻/アクセント)/語彙/文法(助詞/活用/テンス・アスペクト/条件表現)/その他(方言意識)	前半は福島浜通、中南部～栃木・茨城県北部の言語地図。後半はグロットグラム。
298	宮城	書籍	58	菅原孝雄	2006	けせんぬま方言アラカルト	三陸新報社	172	気仙沼市	《記述的研究》方言集	
299	宮城	書籍	59	芦立光之	2006	気仙沼 お国ことば句集	開明書院	179	気仙沼市	《記述的研究》その他	気仙沼市の方言を用いた句を採録したもの。各句の後に語彙の意味も簡単に書かれている。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
300	宮城	論文	1	馬場生	1899	東京仙台方言くらべ	風俗画報194(東陽堂)	17-18	仙台市	《記述的研究》方言集	
301	宮城	論文	2	研亭主人	1899	東京仙台方言くらべ拾遺	風俗画報196(東陽堂)	12-13	仙台市	《記述的研究》方言集	
302	宮城	論文	3	小倉進平	1910	仙台方言音韻組織	国学院雑誌16-3(国学院大学)	70-86	仙台市	《記述的研究》音声(音声/音韻)	鼻母音や無声のr音等の記述あり。
303	宮城	論文	4	あしのまうや	1911	宮城方言抄	風俗画報419(東陽堂)	18-20	全域	《記述的研究》方言集	
304	宮城	論文	5	————	1915	仙台方言	風俗画報471(東陽堂)	31のみ	仙台市	《記述的研究》方言集	
305	宮城	論文	6	青葉山時鳥	1919-1934	仙台の方音と方言	教育	?	?	?	書籍不明。『20世紀方言研究の軌跡』にはあるが確認できず。
306	宮城	論文	7	真山青果	1932	仙台方言雑考(一)	仙台郷土研究2-4(仙台郷土研究会)	24-25	仙台市	《記述的研究》方言集	
307	宮城	論文	8	真山青果	1932	仙台方言雑考(二)	仙台郷土研究2-5(仙台郷土研究会)	8-9	仙台市	《記述的研究》方言集	
308	宮城	論文	9	真山青果	1932	仙台方言雑考(三)	仙台郷土研究2-6(仙台郷土研究会)	16-17	仙台市	《記述的研究》方言集	
309	宮城	論文	10	真山青果	1932	仙台方言雑考(四)	仙台郷土研究2-7(仙台郷土研究会)	22のみ	仙台市	《記述的研究》方言集	
310	宮城	論文	11	真山青果	1932	仙台方言雑考(五)	仙台郷土研究2-8(仙台郷土研究会)	14-15	仙台市	《記述的研究》方言集	
311	宮城	論文	12	真山青果	1932	仙台方言雑考(六)	仙台郷土研究2-9(仙台郷土研究会)	18-19	仙台市	《記述的研究》方言集	
312	宮城	論文	13	小林英夫	1932	仙台方言音韻論試作	方言2-11(春陽堂)	13-58	仙台市	《記述的研究》音声(音韻)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
313	宮城	論文	14	————	1932	仙台方言座談会概況	仙台郷土研究2-2 (仙台郷土研究会)	31-34	仙台市	《その他》	座談会で話題になった語がコメント付きで20語ほど挙げられている。
314	宮城	論文	15	藤原相之助	1932	古い方言と特殊語	仙台郷土研究2-2 (仙台郷土研究会)	34-35	仙台市	《その他》	「ズイナシ、ツハイ」「タレカモノ」「シグ」などに対する雑感。
315	宮城	論文	16	中市謙三	1933	東北方言の特殊音韻	国語教育18-7(国語研究会)	80-83	仙台市	《記述的研究》音声(音韻)	
316	宮城	論文	17	菊沢季生	1934	宮城方言文法の一斑	国語研究2-4(国語学研究会)	60-91	石巻市、亶理町(荒浜村)、仙台市	《記述的研究》文法(文法概説)	「浜荻」や「方言達用集」、方言調査報告、地誌等の記述を筆者が概略的にまとめたもの。
317	宮城	論文	18	燕々軒著/荒砥白翁補	1935	仙台方言資料「俳諧夷艸」	国語研究3-12(国語学研究会)	24-40	仙台市	《記述的研究》方言集	「俳諧夷艸」中に出てくる方言の意味について記述。本論文の「仙臺」と現在の「仙台」の区分が同じか不明。
318	宮城	論文	19	菅野蔵治	1935	仙南地方の家族呼称	方言5-5(春陽堂)	27-30	名取市	《記述的研究》音声(音韻)/方言集	家族呼称とその意味について。方言集とまではいかない。
319	宮城	論文	20	猪狩幸之助編/小倉進平補	1935	宮城県方言考	方言5-6(春陽堂)	6-37	全域	《記述的研究》方言集	
320	宮城	論文	21	真山彬	1936	仙台方言考	宮城県人1-2	?	?	?	書籍不明。『20世紀方言研究の軌跡』にはあるが確認できず。書籍『宮城県人』か、もしくは雑誌『宮城県人』12-xの可能性が高い(宮城県人12は1936年刊)。未調査。
321	宮城	論文	22	倉田一郎	1937	陸前荒浜漁村語彙	方言7-9(春陽堂)	33-46	岩沼市	《記述的研究》方言集	
322	宮城	論文	23	藤原勉	1940	追ふ方言	仙台郷土研究10-3 (仙台郷土研究会)	13のみ	仙台市	《記述的研究》語彙(その他(語源))	仙台市で「ぶくる(追う)」の語源解。犬をけしかけるときの掛け声の記述も。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
323	宮城	論文	24	三原良吉	1940	仙台語彙(一)	仙台郷土研究10-4(仙台郷土研究会)	23のみ	仙台市	《記述的研究》方言集	
324	宮城	論文	25	三原良吉	1940	仙台語彙(二)	仙台郷土研究10-5(仙台郷土研究会)	21のみ	仙台市	《記述的研究》方言集	
325	宮城	論文	26	三原良吉	1940	仙台語彙(三)	仙台郷土研究10-6(仙台郷土研究会)	15のみ	仙台市	《記述的研究》方言集	
326	宮城	論文	27	三原良吉	1940	仙台語彙(四)	仙台郷土研究10-7(仙台郷土研究会)	14のみ	仙台市	《記述的研究》方言集	
327	宮城	論文	28	宮良当壮	1941	宮城・岩手両県方言調査小報	方言研究3(日本方言学会)	61-67	亶理町、仙台市、石巻市、南三陸町(志津川町)	《記述的研究》《地理的分布》音声(音韻)	記述少ない。
328	宮城	論文	29	土井八枝	1941	仙台弁探求の動機	朝日宮城	?	?	?	書籍不明。『20世紀方言研究の軌跡』にはあるが確認できず。
329	宮城	論文	30	三原良吉	1941	仙台語彙(四)	仙台郷土研究11-3(仙台郷土研究会)	13のみ	仙台市	《記述的研究》方言集	論題は「仙台語彙(四)」だが(五)の間違いか。内容は『仙台郷土研究』10-7のものとは異なる。
330	宮城	論文	31	斎藤義七郎	1942	真山青果氏「仙台方言書目」引用書目索引(上)	国語研究10-9(国語学研究会)	7-17	仙台市	《その他》	真山青果のまとめた東北方言(語彙)がどのような書物から引用されているかについて記述。
331	宮城	論文	32	斎藤義七郎	1942	真山青果氏「仙台方言書目」引用書目索引(下)	国語研究10-10(国語学研究会)	14-20	仙台市	《その他》	真山青果のまとめた東北方言(語彙)がどのような書物から引用されているかについて記述。
332	宮城	論文	33	堀籠敬蔵	1951	仙南海浜地方の方言における接頭語と接尾語	教育宮城1-4(宮城県教育委員会)	45-46	仙南海浜地方(名取市、岩沼市、亶理町、山元町あたりか)	《記述的研究》文法(その他(接頭辞/接尾辞))	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
333	宮城	論文	34	佐藤喜代治	1952	終助詞による敬意のあらわし方(宮城県)	国研(52)報告	(24)	全域	《記述的研究》待遇表現	国立国語研究所の地方調査員報告。『地調(52)報告 終助詞による待遇表現(北海道・東北)』の中にとじられている。著者自身の原稿。
334	宮城	論文	35	浅野健二	1953	仙台俚言考(上—特に江戸時代語との関渉について—)	文芸研究14(日本文芸研究会)	55-64	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	文献中の語彙について先行研究・文献をもとに記述。文献調査。
335	宮城	論文	36	浅野健二	1954	仙台俚言考(下)—特に江戸時代語との関渉について—	文芸研究16(日本文芸研究会)	53-61	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	文献中の語彙について先行研究・文献をもとに記述。文献調査。
336	宮城	論文	37	横山辰次	1955	仙台ことば	言語生活51(筑摩書房)	74-75	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	仙台市で使われている語を、東北方言、特に山形県置賜地方の方言と比較したもの。
337	宮城	論文	38	小林好日	1956	仙台方言集「浜荻」について	国語研究4(国学院大学国語研究会)	13-21	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	金田一京助博士還暦記念論文集のために寄稿されたものであったが、第二次世界大戦により刊行できず、国学院大学金田一教授研究室に保管されていたもの。「金田一博士、ならびに、小林博士の御遺族のおゆるしを得て」発表された。
338	宮城	論文	39	佐藤喜代治	1956	宮城	[NHK国語講座 方言の旅]	31-35	仙台市	《記述的研究》音声(音韻)/文法(文法概説)/語彙/待遇表現(敬語)	海岸地帯として牡鹿半島の語も少しある。
339	宮城	論文	40	岡村昭	1956	仙台方言の「あらして」について	言語生活57(筑摩書房)	75のみ	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
340	宮城	論文	41	佐藤孝	1958	三陸女性の感動詞	言語生活86(筑摩書房)	75のみ	気仙沼市	《記述的研究》語彙(その他(感動詞))	
341	宮城	論文	42	平山輝男	1959	仙北方言のアクセント体系とその性格	音声学会会報100(日本音声学会)	27-30	仙台市北部	《記述的研究》音声(アクセント)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
342	宮城	論文	43	伊藤裕	1960	仙台ことばと横浜ことば	ともしび9	?	?	?	書籍不明。『20世紀方言研究の軌跡』にはあるが確認できず。
343	宮城	論文	44	斎藤義七郎	1961	方言の実態と共通語化の問題点 5宮城・山形	〔方言学講座2〕	204-235	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント/イントネーション)/語彙(意味・用法)/文法(助詞/活用/ボイス)	方言の概要を説明した上で、共通語化のために直すべき点を説明している。
344	宮城	論文	45	千葉徳二	1961	東北弁と音楽教育—言語形成期の子供を対象として—	言語生活113(筑摩書房)	51-57	仙台市	《記述的研究》その他(教育法)	仙台市若林区南材木町。
345	宮城	論文	46	菊沢季生	1961	宮城県方言資料文献目録	宮城学院女子大学研究論文集18(宮城学院女子大学文化学会)	111-113	全域	《記述的研究》その他(文献目録)	
346	宮城	論文	47	佐藤亮一	1963	宮城県における多型アクセントの南限—主として二音節名詞について—	文芸研究45(日本文芸研究会)	40-47	東松島市(矢本町)、松島町、多賀城市(多賀城町)、仙台市、七ヶ浜町、利府町(利府村)、名取市(関上町)	《記述的研究》《地理的分布》音声(アクセント)	宮城県全域、仙台市は宮城野区(もと仙台市岩切、仙台市福田町)。
347	宮城	論文	48	加藤正信	1964	北奥方言と南奥方言と越後方言の境界	〔日本の方言区画〕	175-195	気仙沼市、石巻市、仙台市	《地理的分布》音声(音声/音韻)/語彙(語形)/文法(助詞/助動詞/活用)	調査地点はほかに岩手県花巻市、一関市、秋田県横手市、宮城県大崎市(古川)、白石市、山形県新庄市、鶴岡市、山形市、米沢市、小国町、福島県相馬市、福島市、郡山市、会津若松市、新潟県村上市、新発田市、阿賀町(津川)、新潟市、三条市、長岡市、柏崎市、上越市(高田)。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
348	宮城	論文	49	佐藤亮一	1966	宮城県北部における三音節名詞のアクセント	国語学研究6(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	16-29	気仙沼市(気仙沼市、本吉町)、南三陸町(歌津町、志津川町)、女川町、石巻市(北上町、雄勝町、牡鹿町、河北町、河南町)、東松島市(矢本町)、松島町、多賀城市(多賀城町)	《地理的分布》音声(アクセント)	
349	宮城	論文	50	加藤正信	1967	動詞語尾における連母音アウ・オウの音訛—宮城県方言を中心にして—	国語学研究7(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	35-46	気仙沼市(気仙沼市、本吉町)、南三陸町(歌津町、志津川町)、石巻市(石巻市、鮎川町、河北町、河南町)	《記述的研究》音声(音声/音韻)/文法(活用/ボイス/テンス・アスペクト)/《地理的分布》音声(音声/音韻)	
350	宮城	論文	51	佐藤孝	1967	アルとイル	言語生活186(筑摩書房)	73-75	阿武隈川河口付近	《記述的研究》語彙(意味・用法)	地域についての記述は「阿武隈川河口付近」だけ。分量は少なめ。
351	宮城	論文	52	佐藤亮一	1967	アクセントの「ゆれ」の実態—宮城県北部のアクセントについて—	日本方言研究会第4回発表原稿集	18-30	気仙沼市、南三陸町、石巻市、女川町、東松島市、松島町、仙台市	《地理的研究》音声(アクセント)	
352	宮城	論文	53	藤原与一	1967	東北方言「文末詞」の研究 “山形弁” “宮城弁” について	方言研究年報10(広島大学方言研究会)	57-72	松島町	《記述的研究》文法(文末形式・文末表現)	
353	宮城	論文	54	藤原与一	1967	“山形弁” と “宮城弁”	国語学70(国語学会)	76-86	松島町	《記述的研究》音声/文法(文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
354	宮城	論文	55	佐藤亮一	1968	宮城県北部におけるアクセントの一側面—語単独の相と助詞を付けたときの相との違いに関して—	聖和7(聖和学園短期大学)	69-95	気仙沼市(気仙沼市、本吉町)、南三陸町(志津川町)、石巻市(河北町、北上町)、東松島市(矢本町)、松島町、仙台市	《地理的分布》音声(アクセント)	気仙沼市(字九条、字岩月台の沢)、本吉郡本吉町(大沢、小浜)、本吉郡本吉町、登米郡東和町、登米郡登米町、本吉郡津山町、桃生郡河北町、桃生郡北上町、登米郡迫町、栗原郡金成町、栗原郡若柳町、栗原郡栗駒町、玉造郡岩出山町、玉造郡鳴子町、加美郡中新田町、桃生郡矢本町、宮城郡松島町、黒川郡大衡村、黒川郡富谷町、宮城郡泉町、仙台市北山、仙台市郡山北目宅地の24地点。参考として岩手県南部の4地点も調査。
355	宮城	論文	56	太田真喜子・但野きよ江	1968	仙台方言のイントネーションについて	日本文学ノート3(宮城学院女子大学日本文学会)	117-124	仙台市、石巻市(牡鹿町)	《記述的研究》音声(イントネーション)	他、丸森にて調査。
356	宮城	論文	57	熊坂津恵子	1969	仙台の方言集に関する一考察	日本文学ノート4(宮城学院女子大学日本文学会)	142-151	仙台市	《記述的研究》その他(方言集考察)	12冊の仙台方言集に関して、その編纂目的や内容などを比較・考察したもの。
357	宮城	論文	58	高橋富雄	1969	方言	[県史シリーズ4 宮城県の歴史]	左40-43	仙台市	《記述的研究》方言集	付録。民謡についても紹介されている(P.46)。
358	宮城	論文	59	佐藤喜代治・加藤正信	1972	三陸地方南部の言語調査報告	日本文化研究所研究報告 別巻8・9(東北大学日本文化研究所)	1-50	気仙沼市(気仙沼市、唐桑町、本吉町)	《地理的分布》音声(音韻/アクセント)/方言集/文法(助詞/ボイス/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	
359	宮城	論文	60	青柳精三	1973	東北の東海岸における方位潮流語彙の外観	フィールドの歩み4(東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	49-69	気仙沼市(唐桑町)、石巻市(牡鹿町)、塩竈市、亶理町	《地理的分布》語彙	岩手県久慈市久喜より茨城県日立市川尻に至る22の漁港で、漁歴の長い人から聞き取り調査をしたもの。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
360	宮城	論文	61	佐藤忠雄	1974	仙台方言の音節とその用例	音声学会会報146 (日本音声学会)	9-11	仙台市	《記述的研究》音声(その他(音節))	
361	宮城	論文	62	佐藤忠雄	1975	仙台方言における母音研究	音声学会会報148 (日本音声学会)	15-21	仙台市	《記述的研究》音声(音韻)	
362	宮城	論文	63	加藤正信	1976	江戸時代以降の仙台方言語史—転訛を中心として—	[佐藤喜代治教授退官記念国語学論集]	603-624	仙台市を中心に全域	《地理的分布》語彙(その他(語史))	
363	宮城	論文	64	浮田ゼミ	1979	宮城県出島における言語調査 第2回	緑聖文芸10(女子聖学院短期大学国語国文学会)	12-16	女川町(宮城県出島)	《記述的研究》談話資料	調査対象者に文章を読んでもらったものか。
364	宮城	論文	65	国立国語研究所	1981	国立国語研究所資料集 方言談話資料5 岩手・宮城・千葉・静岡	国立国語研究所	133-191	亶理町(亶理町荒浜)	《記述的研究》談話資料	
365	宮城	論文	66	加藤正信	1981	あいさつお国めぐり(3)仙台の巻	言語生活351(筑摩書房)	90-91	全域	《記述的研究》方言集	あいさつについて。方言集とまではいかないが、どのような言葉が使われているかについて記述されている。
366	宮城	論文	67	加藤正信・佐藤和之・小林隆	1982	宮城県北地方の方言調査報告	日本文化研究所研究報告 別巻19(東北大学日本文化研究所)	左1-28	石巻市(北上町、雄勝町、牡鹿町、河北町)、東松島市(鳴瀬町)	《記述的研究》音声(音韻)/語彙(意味・用法)/文法(助詞/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	宮城県北地方20地点(桃生郡、牡鹿郡、登米郡、本吉郡、遠田郡、栗原郡、志田郡、玉造郡、加美郡のなかで20地点)。
367	宮城	論文	68	加藤正信・佐藤武義	1982	方言集	[宮城県百科事典]	1182-1185	全域	《記述的研究》方言集	他にも方言に関する項目あり。
368	宮城	論文	69	佐藤亨	1982	宮城県の方言	[講座方言学4 北海道・東北地方の方言]	333-361	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/方言集/文法(助詞/条件表現/文末形式・文末表現)/言語行動(表現)/待遇表現(敬語)	
369	宮城	論文	70	佐藤武義	1983	宮城県方言の歴史と国語史	[宮城の研究7 民族・方言・建築史編]	303-350	全域	《記述的研究》語彙(その他(方言語彙史))	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
370	宮城	論文	71	齋藤友季子	1985	国学院大学図書館蔵「奥州仙台こと葉いろは寄」について—考察と翻刻—	国学院雑誌86-7(国学院大学)	17-35	仙台市	《記述的研究》方言集/その他(異本比較)	小倉本・叢書本・國學院大學所蔵本を比較し、校異を示している。翻刻もなされている。
371	宮城	論文	72	黄鴻信	1985	学校における待遇表現の調査研究—仙台市の場合—	文芸研究108(日本文芸研究会)	52-63	仙台市	《記述的研究》待遇表現(敬語)	
372	宮城	論文	73	三宅民夫	1987	各地のねぎらいのこぼ(7)うざねはいたね(宮城県唐桑町)	言語生活428(筑摩書房)	81のみ	気仙沼市(唐桑町)	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
373	宮城	論文	74	大西拓一郎	1987	仙台市方言における2種類の尻上がり音調について	国語学研究27(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左11-23	仙台市	《記述的研究》音声(イントネーション)	
374	宮城	論文	75	大西拓一郎	1989	宮城県志津川町方言の名詞のアクセント—音節単位によるモーラ方言の分析—	国語学158(国語学会)	左36-49	南三陸町(志津川町)	《記述的研究》音声(アクセント)	
375	宮城	論文	76	三沢奈緒美	1990	宮城県南部の方言区画—語彙を中心とした考察—	日本文学ノート25(宮城学院女子大学日本文学会)	75-89	亶理町、山元町	《地理的分布》語彙(意味・用法)	刈田郡、伊具郡、亶理郡の33地点。
376	宮城	論文	77	大西拓一郎	1990	宮城県志津川町方言の用言のアクセント—動詞の変化形を中心に—	日本文化研究所研究報告 別巻27(東北大学日本文化研究所)	15-40	南三陸町(志津川町)	《記述的研究》音声(アクセント)	
377	宮城	論文	78	大西拓一郎	1991	宮城県気仙沼市方言の動詞のアクセント	[東日本の音声 論文編1]	17-24	気仙沼市(階上村)	《記述的研究》音声(アクセント)	
378	宮城	論文	79	大西拓一郎	1992	方言アクセントの現在—仙台市方言におけるアクセントの獲得を中心に—	日本語学11-10(明治書院)	98-113	仙台市	《記述的研究》音声(アクセント)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
379	宮城	論文	80	遠藤仁・松本宙	1994	宮城方言の言語地理学的研究	〔宮城教育大学所蔵資料による宮城県を中心とした教育・言語・文芸の研究〕	左1-16	気仙沼市(新月村、唐桑町、気仙沼町、大島村、階上村、小泉村、大谷村)、南三陸町(入谷村、志津川町、歌津村、戸倉村)、石巻市(石巻市、荻浜村、大原町、鮎川村)、女川町、亶理町(逢隈村、亶理町、荒浜村、吉田村)	《地理的分布》語彙(その他(語史))	本吉郡32地点、牡鹿郡15地点、亶理郡6地点、栗原郡26地点。宮城教育大学付属図書館に「旧宮城師範資料」として蔵せられていた『宮城県下方言調査資料 その1(社会・生活関係の部)』『宮城県下方言調査資料その2(雑載・文法関係の部)』を使用。「この調査の目的・調査票および被調査者については不明であるが、(中略)昭和8年に生徒自らの手によって調査がなされたものと推定される」。
380	宮城	論文	81	小林隆	1995	変容する日本の方言—仙台市 住民意識に見る方言志向・共通語志向	言語24-12(大修館書店)	34-46	仙台市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》その他(方言意識)	
381	宮城	論文	82	大西拓一郎	1995	仙台市多人数音調調査の資料一覧	〔東日本の音声 論文編4—主要都市多人数調査(弘前市・仙台市)報告〕	41-69	仙台市	《記述的研究》音声(アクセント)	アクセント資料一覧。
382	宮城	論文	83	半沢康	1995	仙台市におけるランダム配列読み上げ調査の調査結果報告	〔東日本の音声 論文編4—主要都市多人数調査(弘前市・仙台市)報告〕	31-40	仙台市	《記述的研究》《世代差》音声(アクセント)	
383	宮城	論文	84	李範錫	1997	無型アクセント方言のイントネーション—平坦な音調の形成要因について—	言語科学論集1(東北大学文学部言語科学専攻)	123-134	仙台市	《記述的研究》音声(音声/イントネーション)	
384	宮城	論文	85	李範錫	1997	仙台無型アクセント方言話者におけるイントネーションとフォーカス	国語学研究36(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左13-21	仙台市	《記述的研究》音声(イントネーション)/言語行動(談話分析)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
385	宮城	論文	86	大橋純一	1997	宮城県山元町方言における語中・尾力行子音の有声化・半有声化現象について—多人数話者の場面差および音意識の面から—	国語学研究36(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左23-32	山元町	《記述的研究》《グロットグラム》音声(音声/イントネーション)/言語行動(談話分析)	
386	宮城	論文	87	大橋純一	1997	東北方言における/k/の地理的・年代的諸相と展開—/k/子音と/i/母音との関連性に着目して—	言語科学論集1(東北大学文学部言語科学専攻)	15-26	山元町	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》《グロットグラム》音声(音声/音韻)	
387	宮城	論文	88	小林隆・李範錫・竹田晃子・瀧川美穂	1998	宮城県仙台市方言の記述的調査報告	東北文化研究室紀要40(東北大学文学部東北文化研究室)	左57-75	仙台市	《記述的研究》音声(音声/イントネーション)/文法(テンス・アスペクト)/言語行動(表現)	
388	宮城	論文	89	木幡弓	1999	宮城県気仙沼市方言と秋田県由利方言からみた「の」の一考察	言語科学研究5(神田外語大学大学院)	31-44	気仙沼市	《記述的研究》文法(助詞)	
389	宮城	論文	90	金田弘	1999	仙台藩儒松本靖斎・桜田簡斎とその言語	〔近代語研究10〕	71-86	仙台市	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)	
390	宮城	論文	91	玉懸元	1999	仙台市方言の「べー」の用法	言語科学論集3(東北大学文学部言語科学専攻)	37-48	仙台市	《記述的研究》文法(助詞/テンス・アスペクト/文末形式・文末表現)	
391	宮城	論文	92	李範錫	1999	無型アクセント方言話者における文イントネーションの標準語化—仙台市方言を例として—	国語学197(国語学会)	左1-12	仙台市	《記述的研究》《グロットグラム》《共通語化》音声(アクセント/イントネーション)	
392	宮城	論文	93	李範錫	1999	無型アクセント方言におけるフォーカスと韻律的特徴との関連について—仙台市方言を例として—	国語学研究38(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左11-26	仙台市	《記述的研究》《世代差》音声(イントネーション)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
393	宮城	論文	94	半沢康	1999	東北地方の地域方言と社会方言	日本語学18-13(明治書院)	176-184	名取市、岩沼市、亶理町、山元町	《グロットグラム》音声(音韻/テンス・アスペクト)/文法(文末表現・文末形式/助詞/その他)	宮城県北部から福島県いわき市にかけてのグロットグラムや、福島県・宮城県のグロットグラムを用いて方言変化の様子をみたもの。亶理町(逢隈、浜吉田)、山元町(上平、中浜、磯浜)、岩沼市(岩沼)、名取市(名取)、仙台市(南仙台、仙台、泉)。
394	宮城	論文	95	飯間明日香	2000	現代社会における方言意識—仙台方言地域の高校生を中心として—	宮城学院女子大学大学院人文学会誌1(宮城学院女子大学大学院人文学会)	72-80	仙台市	《記述的研究》その他(方言意識)	仙台市と弘前市の二地点間の比較。
395	宮城	論文	96	大橋純一	2000	1.ガ行鼻音	[宮城県仙台市方言の研究]	8-19	仙台市	《世代差》音声(音韻)	性差に関する記述もあり。
396	宮城	論文	97	佐藤亮一	2000	2.アクセント	[宮城県仙台市方言の研究]	20-27	仙台市	《世代差》音声(アクセント)	
397	宮城	論文	98	李範錫	2000	3.イントネーション	[宮城県仙台市方言の研究]	28-35	仙台市	《記述的研究》音声(イントネーション)	
398	宮城	論文	99	竹田晃子・吉田雅昭	2000	4.テンス・アスペクト	[宮城県仙台市方言の研究]	36-55	仙台市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》文法(テンス・アスペクト)	性差に関する記述もあり。
399	宮城	論文	100	小林隆	2000	5.文末形式「ケ」	[宮城県仙台市方言の研究]	56-70	仙台市	《記述的研究》《世代差》文法(文末形式・文末表現)	
400	宮城	論文	101	武田拓	2000	6.終助詞「ワ」	[宮城県仙台市方言の研究]	71-75	仙台市	《世代差》文法(文末形式・文末表現)	性差に関する記述もあり。
401	宮城	論文	102	玉懸元	2000	7.終助詞「ツチャ、サ」	[宮城県仙台市方言の研究]	76-89	仙台市	《記述的研究》文法(文末形式・文末表現)《世代差》文法(文末形式・文末表現/その他(使用意識))	性差に関する記述もあり。
402	宮城	論文	103	瀧川美穂	2000	8.要求表現	[宮城県仙台市方言の研究]	90-100	仙台市	《世代差》文法(文末形式・文末表現)	性差に関する記述もあり。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
403	宮城	論文	104	斎藤典子	2000	9.待遇表現	〔宮城県仙台市方言の研究〕	101-115	仙台市	《世代差》《共通語化》待遇表現(敬語)	性差に関する記述もあり。
404	宮城	論文	105	作田将三郎	2000	10.伝統的方言語彙	〔宮城県仙台市方言の研究〕	116-129	仙台市	《記述的研究》語彙(その他(語史))	
405	宮城	論文	106	武田拓	2000	11.新しい方言語彙	〔宮城県仙台市方言の研究〕	130-135	仙台市	《世代差》語彙(意味・用法)	
406	宮城	論文	107	佐藤祐希子	2000	12.「いきなり」の方言用法	〔宮城県仙台市方言の研究〕	136-144	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法/その他(使用意識))《世代差》語彙(意味・用法)	
407	宮城	論文	108	半沢康	2000	13.方言意識	〔宮城県仙台市方言の研究〕	145-156	仙台市	《世代差》その他(方言意識)	
408	宮城	論文	109	小林隆	2000	仙台市方言の文末形式「ケ」	〔語から文章へ〕	左127-140	仙台市	《記述的研究》文法(文末形式・文末表現)	
409	宮城	論文	110	小林隆・竹田晃子・玉懸元・佐藤祐希子	2001	宮城県石巻市方言の記述的調査報告	東北文化研究室紀要43(東北大学文学研究科東北文化研究室)	左59-75	石巻市	《記述的研究》文法(助詞/テンス・アスペクト)/言語行動(表現)	
410	宮城	論文	111	玉懸元	2001	宮城県仙台市方言の終助詞「ツチャ」の用法	国語学205(国語学会)	30-43	仙台市	《記述的研究》文法(文末形式・文末表現)	
411	宮城	論文	112	ボンダレンコ H. J.	2001	H. J. レザノフの日本語辞典における仙台方言の特徴	東北アジア研究5(東北大学東北アジア研究センター)	27-46	仙台市	《記述的研究》方言集	
412	宮城	論文	113	大橋純一	2001	東北方言におけるガ行鼻音の動向	文芸研究151(日本文芸研究会)	97-106	山元町	《地理的分布》音声(音韻/アクセント)	
413	宮城	論文	114	山県浩	2001	近世方言書類の上方語『仙台言葉以呂波寄』『燈心野語』を中心に	〔筑紫語学論叢:奥村三雄博士追悼記念論文集〕	372-388	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	全日本各地(大阪、京都、仙台など)。方言書物12冊の江戸語京都語との比較。
414	宮城	論文	115	玉懸元	2002	仙台市方言の「ベー」の用法(2)―「推量」「確認」「確認要求」の用法をめぐる―	国語学研究41(東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会)	左24-35	仙台市	《記述的研究》文法(文末形式・文末表現)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
415	宮城	論文	116	大橋純一	2003	音韻	〔宮城県石巻市方言の研究〕	5-17	石巻市	《記述的研究》《世代差》音声(音韻)	
416	宮城	論文	117	佐藤亮一	2003	アクセント	〔宮城県石巻市方言の研究〕	18-28	石巻市	《記述的研究》音声(アクセント)	
417	宮城	論文	118	玉懸元	2003	格助詞・副助詞・終助詞	〔宮城県石巻市方言の研究〕	29-43	石巻市	《記述的研究》文法(助詞/文末形式・文末表現)《世代差》文法(助詞)	
418	宮城	論文	119	櫻井真美	2003	条件表現形式「トキ」	〔宮城県石巻市方言の研究〕	44-49	石巻市、仙台市、多賀城市、塩釜市、利府町、松島町、東松島市(成瀬町、矢本町)	《グロットグラム》文法(条件表現)	仙台市=仙台市宮城野区。
419	宮城	論文	120	竹田晃子	2003	テンス・アスペクト—体系と属性差—	〔宮城県石巻市方言の研究〕	50-59	石巻市	《記述的研究》《世代差》文法(テンス・アスペクト)	性差に関する記述もあり。
420	宮城	論文	121	高田祥司・竹田晃子	2003	テンス・アスペクト—仙石線グロットグラム調査から—	〔宮城県石巻市方言の研究〕	60-68	石巻市、仙台市、多賀城市、塩釜市、利府町、松島町、東松島市(成瀬町、矢本町)	《グロットグラム》文法(テンス・アスペクト)	仙台市=仙台市宮城野区。
421	宮城	論文	122	竹田晃子	2003	可能表現	〔宮城県石巻市方言の研究〕	69-74	石巻市	《記述的研究》《世代差》文法(ボイス)	性差に関する記述もあり。
422	宮城	論文	123	佐藤祐希子	2003	「ナゲル」の用法	〔宮城県石巻市方言の研究〕	75-83	石巻市	《記述的研究》《世代差》語彙(意味・用法)	
423	宮城	論文	124	作田将三郎	2003	伝統的方言語彙	〔宮城県石巻市方言の研究〕	84-102	石巻市、仙台市、多賀城市、塩釜市、利府町、松島町、東松島市(成瀬町、矢本町)	《地理的分布》語彙(その他(語史))《グロットグラム》語彙(意味・用法)	仙台市=仙台市宮城野区。
424	宮城	論文	125	武田拓	2003	方言語彙の動向	〔宮城県石巻市方言の研究〕	103-109	石巻市	《世代差》語彙(意味・用法)	気付かない方言、新方言。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
425	宮城	論文	126	武田拓・半沢康	2003	仙石線グロットグラム調査報告	[宮城県石巻市方言の研究]	110-162	石巻市、仙台市、多賀城市、塩釜市、利府町、松島町、東松島市(成瀬町、矢本町)	《グロットグラム》語彙(語形/意味・用法)/文法(助詞/活用/文末形式・文末表現/その他(接辞))/言語行動(表現)/その他	仙台市=仙台市宮城野区。
426	宮城	論文	127	高橋ゆか	2003	接尾語「コ」の性格—宮城県石巻市の場合—	日本文学ノート38(宮城学院女子大学日文学会)	64-71	石巻市	《記述的研究》文法(文法概説)	
427	宮城	論文	128	琴鍾愛	2003	仙台市方言における談話展開の方法—説明的場面で使用される談話標識から見る—	文芸研究155(日本文芸研究会)	左1-13	仙台市	《記述的研究》言語行動(談話分析)	
428	宮城	論文	129	佐藤祐希子	2003	「気づかない方言」の意味論的考察—仙台市における程度副詞的な「イキナリ」—	国語学212(国語学会)	32-45	仙台市	《記述的研究》文法(文法概説/テンス・アスペクト)/その他(方言意識)	
429	宮城	論文	130	作田将三郎	2003	宮城県における<糠>の地方語史	言語科学論集7(東北大学大学院文学研究科言語科学専攻)	59-70	南三陸町(志津川町)、石巻市(石巻市、河北町)、塩竈市、仙台市(仙台市、宮城町)、名取市	《地理的分布》語彙(その他(語史))	宮城県全域を対象としている。他に登米市(中田町、迫町、南方町)、加美町(中新田町)、涌谷町、大崎市(鹿島台町)、角田市、蔵王町、白石市、丸森町。
430	宮城	論文	131	佐藤祐希子	2004	東北方言の「ナゲル」の形成に関する一考察—宮城県石巻市方言の分析を通して—	文芸研究158(日本文芸研究会)	左1-13	石巻市	《記述的研究》文法(文法概説)	
431	宮城	論文	132	琴鍾愛	2004	仙台方言における談話展開の方法の世代差—談話標識の出現傾向から見る—	東北文化研究室紀要46(東北大学文学研究科東北文化研究室)	43-59	仙台市	《世代差》言語行動(談話分析)/談話資料	談話標識の出現傾向についての分析。談話資料は少ない。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
432	宮城	論文	133	琴鍾愛	2004	仙台市方言における談話標識の出現傾向	国語学研究43(東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会)	左1-13	仙台市	《記述的研究》言語行動(談話分析)/談話資料	
433	宮城	論文	134	阿部貴人	2004	特集;スタイル切換え(3)——仙台方言話者のスタイル切換え	阪大社会言語学研究ノート6(大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室)	2-22	仙台市	《記述的研究》言語行動(談話分析)	
434	宮城	論文	135	琴鍾愛	2005	日本語方言における談話標識の出現傾向 東京方言, 大阪方言, 仙台方言の比較	日本語の研究1-2(日本語学会)	1-17	仙台市	《記述的研究》言語行動(談話分析)	
435	宮城	論文	136	琴鍾愛	2005	高校生における談話展開の方法の特徴—宮城県仙台方言を例として—	日本語学研究14(韓国日本語学会)	51-66	仙台市	《世代差》言語行動(談話分析)/談話資料	談話資料は少ない。
436	宮城	論文	137	作田将三郎	2005	宮城県における<雷>の地方語史	国語学研究44(東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会)	41-53	全域	《地理的分布》語彙(その他(語史))	
437	宮城	論文	138	国立国語研究所	2006	I.宮城県仙台市1977	[全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第3巻]	11-95	仙台市	《記述的研究》談話資料	昭和52年度から60年度にかけて、文化庁によって実施された「各地方言収集緊急調査」の一部。仙台市の談話資料は1977年(昭52)のもの。
438	宮城	論文	139	玉懸元	2006	方言文末形式の使用実態とその背景—仙台市方言における—	国語学研究45(東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会)	48-60	仙台市	《記述的研究》文法(文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)/その他(方言意識)	
439	宮城	論文	140	作田将三郎	2006	東北地方における<雷>の地方語史	文化69-3・4(東北大学文学会)	左58-77	気仙沼市、南三陸町、石巻市、松島町、仙台市、名取市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(その他(語史))	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
440	宮城	論文	141	作田将三郎	2007	庶民記録から見た力行・タ行子音の有声化—宮城県を例に—	国語学研究46(東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会)	31-44	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻)	
441	宮城	論文	142	斎藤佳苗	2007	宮城県における方言の社会的活用	名古屋・方言研究会会報24(名古屋・方言研究会)	47-61	全域	《記述的研究》方言集/その他(方言意識)	
442	宮城	論文	143	琴鍾愛	2007	説明的場面における「ダカラ」の機能—仙台方言の高年層談話資料の分析から—	日本研究33(韓国外国語大学校日本研究所)	215-231	仙台市	《記述的研究》言語行動(談話分析)	
443	宮城	論文	144	琴鍾愛	2008	談話における「ネ」の機能 仙台方言の説明的場面で使用される談話標識としての機能	日本文化学報38(韓国日本文化学会)	15-29	仙台市	《世代差》言語行動(談話分析)	
444	宮城	論文	145	川越めぐみ	2011	山形県・宮城県におけるグイラ・ボット系オノマトペについて—具体的描写性の強弱の観点から—	日本方言研究会第92回発表原稿集	35-42	気仙沼市	《記述的研究》語彙	気仙沼市はアンケート調査。その他、山形県寒河江市の面接調査と、陸羽東線グロットグラム照査の結果も併せて考察している。
445	宮城	論文	146	大橋純一	2012	音韻	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	7-20	気仙沼市	《世代差》音声(音韻)	
446	宮城	論文	147	佐藤亮一	2012	アクセント—気仙沼市—	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	21-32	気仙沼市	《世代差》音声(アクセント)	
447	宮城	論文	148	田中宣廣	2012	アクセント—三陸地方南部地域—	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	33-43	気仙沼市(唐桑、鹿折、気仙沼、大島、本吉町)、南三陸町、石巻市	《記述的研究》《地理的分布》音声(アクセント)	
448	宮城	論文	149	田附敏尚	2012	動詞の活用	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	44-58	気仙沼市	《記述的研究》文法(活用)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
449	宮城	論文	150	玉懸元	2012	格助詞相当形式「ンドゴ」	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	59-64	気仙沼市	《記述的研究》《世代差》文法(助詞)	性差に関する記述もあり。
450	宮城	論文	151	玉懸元	2012	終助詞「ゴド」	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	65-72	気仙沼市	《記述的研究》《世代差》文法(文末形式・文末表現)	性差に関する記述もあり。
451	宮城	論文	152	竹田晃子	2012	ヴォイス(受身・可能)	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	73-86	気仙沼市(唐桑、鹿折、気仙沼、大島、本吉町)、南三陸町、石巻市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》文法(ボイス)	
452	宮城	論文	153	竹田晃子	2012	テンス・アスペクト	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	87-98	気仙沼市(唐桑、鹿折、気仙沼、大島、本吉町)、南三陸町、石巻市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》文法(テンス・アスペクト)	
453	宮城	論文	154	吉田雅昭	2012	想起表現	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	99-117	気仙沼市	《世代差》文法(テンス・アスペクト/文末形式・文末表現)/言語行動(表現)	性差に関する記述もあり。
454	宮城	論文	155	作田将三郎	2012	伝統的方言語彙	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	118-136	気仙沼市	《地理的分布》語彙(その他(語史))《世代差》語彙(意味・用法)	性差に関する記述もあり。
455	宮城	論文	156	武田拓	2012	新しい方言語彙・三陸地方特有語彙	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	137-140	気仙沼市	《世代差》語彙(意味・用法)	
456	宮城	論文	157	櫛引祐希子	2012	方言特有の「イキナリ」「ナゲル」「オチル」の分布状況	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	141-152	気仙沼市(唐桑、鹿折、気仙沼、大島、本吉町)、南三陸町、石巻市	《地理的分布》語彙(意味・用法)	
457	宮城	論文	158	川越めぐみ	2012	グイラ・ポット系オノマトペの個人差について	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	153-164	気仙沼市	《記述的研究》《世代差》語彙(その他(オノマトペ))	気仙沼市松岩地区と気仙沼市気仙沼地区における比較も行っている。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
458	宮城	論文	159	小林隆・澤村美幸	2012	驚きの感動詞「バ」	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	165-188	気仙沼市	《記述的研究》語彙(その他(感動詞))	気仙沼市(唐桑・鹿折・気仙沼・大島・本吉町)・南三陸町・石巻市におけるアバ系感動詞の分布にも少し触れている。
459	宮城	論文	160	中西太郎	2012	あいさつ表現	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	189-208	気仙沼市(唐桑・鹿折・気仙沼・大島・本吉町)、南三陸町、石巻市	《地理的分布》《世代差》言語行動(あいさつ表現)	
460	宮城	論文	161	椎名渉子	2012	寝かせつけ場面を中心とした育児の言語行動	〔宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究〕	209-221	気仙沼市(唐桑・鹿折・気仙沼・大島・本吉町)、南三陸町、石巻市	《地理的分布》言語行動(表現)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
461	宮城	市町村史	1	名取教育会	1925	名取郡誌	名取教育会	635-644	名取市(名取郡)	《記述的研究》語彙(意味・用法)/方言集	三十四、方言俚諺 1973年に名著出版から復刻版が出ている。
462	宮城	市町村史	2	山下村役場	1936	宮城県亘理郡山下村誌	山下村役場	342-347	山下村(山元町)	《記述的研究》方言集	第十四章 人情 風俗 習慣 第三節 風慣 六、言語。
463	宮城	市町村史	3	気仙沼町誌編纂委員会	1953	気仙沼町誌	気仙沼町誌編纂委員会	423-456	気仙沼市(気仙沼町)	《記述的研究》方言集	第十五章 民俗 一、言語 関西地方のことはとの関わりについて言及あり。
464	宮城	市町村史	4	宮城県	1960	宮城県史20 民俗Ⅱ	宮城県史刊行会	左1-386	全域(一部各地域について記述)	《記述的研究》音声(アクセント/イントネーション)/語彙(意味・用法/その他(擬声語・擬態語))/方言集/文法(助詞/条件表現)/言語行動(表現)/待遇表現(敬語)	「方言」という項が立てられている(藤原勉編)。ここには東北・宮城全域の記述あり。その他、地方の言葉に関して書かれている章として、マタギ言葉を取り上げた只野淳「山間民俗」(p.29-61)や民謡・諺等を取り上げた藤原勉「言語民俗」(p.119-181)、天江富弥「童戯・童詞」(p.243-329)、渡辺波光・菅原喜一「童唄」(p.333-355)もある。
465	宮城	市町村史	5	宮城郡利府村々誌編纂委員会	1963	利府村誌	宮城郡利府村役場	741-743	利府町(利府村)	《記述的研究》方言集	後編 第九章 行事と民風 八、利府地方の方言。
466	宮城	市町村史	6	石巻市史編纂委員会	1963	石巻市史 第五巻	石巻市史編さん委員会	106-144	石巻市	《記述的研究》方言集	第二十六篇 郷土色 第五章 方言。
467	宮城	市町村史	7	佐々久監修/多賀城町誌編纂委員会	1967	多賀城町誌	多賀城町誌編纂委員会	780-820	多賀城市(多賀城町)	《記述的研究》方言集	第六篇 民俗 二、方言。
468	宮城	市町村史	8	唐桑町史編纂委員会	1968	唐桑町史	唐桑町史編纂委員会	701-714	気仙沼市(唐桑町)	《記述的研究》方言集	第七篇 民俗 第七章 方言。
469	宮城	市町村史	9	山元町誌編纂委員会	1971	山元町誌	山本町役場企画広報課	686-696	山元町	《記述的研究》方言集	第五編 民俗 第九章 方言(訛語)。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
470	宮城	市町村史	10	本吉郡誌編纂委員会	1973	本吉郡誌	本吉郡誌編纂委員会	846-859	気仙沼市(本吉町)	《記述的研究》方言集	第十三章民俗 一、言語。
471	宮城	市町村史	11	牡鹿郡役所	1975	牡鹿郡誌(全)	牡鹿郡役所	154-159	石巻市(牡鹿郡)	《記述的研究》方言集	二、方言。
472	宮城	市町村史	12	本吉町誌編纂委員会	1982	本吉町誌(Ⅱ)	本吉町	1535-1560	気仙沼市(本吉町)	《記述的研究》方言集	p.1535-1545「俚諺」として本吉町内で話される諺の類について、主に共通語形式で列挙。但し一部に方言形がある。 p.1545-1560「方言」として本吉町内のいわゆる俚言形を五十音順に配列。500語程度採録。同書(Ⅰ)にも「町内の庭木」「町内に見る食用植物」「本吉町沿岸の動植物」の箇所の一部方言形や地方名として挙がっているが、数は多くない。
473	宮城	市町村史	13	岩沼市史編纂委員会	1984	岩沼市史	岩沼市	1330-1339	岩沼市	《記述的研究》方言集	第十四章 民俗 第六節 岩沼の方言。
474	宮城	市町村史	14	佐々久監修/利府町誌編纂委員会	1986	利府町誌	利府町	954-959	利府町	《記述的研究》方言集	第十七章 第二節 八、利府地方の方言。
475	宮城	市町村史	15	多賀城市史編纂委員会	1986	多賀城市史 第三巻 民俗・文学	多賀城市史編纂委員会	471-675	多賀城市	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法/その他/《地理的分布》語彙	多賀城市の方言。
476	宮城	市町村史	16	石巻市史編さん委員会	1988	石巻の歴史 第三巻 民俗・生活編	石巻市史編さん委員会	636-771	石巻市	《記述的研究》音声/方言集/文法/待遇表現	第一章 石巻の方言 第二章 語彙集 東北地方、石巻市以外の宮城県方言についても記述あり。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
477	宮城	市町村史	17	志津川町誌編さん室	1989	生活の歎 志津川町誌Ⅱ	志津川町	252-256、656-819	南三陸町(志津川町)	《記述的研究》語彙/その他(昔話)	第二章 第二節 2 部屋の呼び名と使い方 第八章 第三節 昔話 昔話は話者の語り口が生かされていて、発音通りの表記がなされている。
478	宮城	市町村史	18	桃生町史編纂委員会	1990	桃生町史 第三巻 自然・民俗編	桃生町史編纂委員会	477-499	石巻市(桃生町)	《記述的研究》方言集	第七章 桃生のことば。
479	宮城	市町村史	19	気仙沼市史編さん委員会	1994	気仙沼市史Ⅶ 民俗・宗教編	気仙沼市史編さん委員会	284-302	気仙沼市	《記述的研究》音声/語彙/その他	第三節 方言。
480	宮城	市町村史	20	大塚徳郎監修/牡鹿町誌編さん委員会	2002	牡鹿町誌 下巻	牡鹿町	614-918	石巻市(牡鹿町)	《記述的研究》音声(音声/音韻)/方言集/文法(文法概説)	第十三編 第二章 第四節 方言 全国、東北、宮城の方言についても記述あり。
481	宮城	市町村史	21	北上町史編さん委員会	2004	北上町史 自然生活編	北上町	572-633	石巻市(北上町)	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(文法概説)	第2節 方言 (第1節伝説・昔話・民謡 p.517-571)。